

認定NPO法人
市民セクターよこはま

■ 事業報告 2018 ■

2018年度（2018年4月～2019年3月）



～誰もが自分らしく暮らせるまち～

一人ひとりの市民が主人公として、
幸せと豊かさを実感できる市民社会の実現を目指して...

【2018年度事業報告書 目次】

◆ 2018 年度を振り返って	P 4
◆ 運営に関する事項（法人総務）	
(1) 会員〔会員数・会員総会〕	P 7
(2) 理事会〔開催日・議題〕	P 7
(3) 各団体・行政機関等の委員の受任	P 8
(4) 他団体の会員として	P 10
.	

◆ 事業に関する事項

◇ 市民活動支援事業

- 横浜市市民活動支援センター運営事業 P 11
※別紙「事業報告 2018」参照



- にしく市民活動支援センター運営事業 P 11
※別紙「事業報告 2018」参照



- NPO 法人事業化パワーアッププロジェクトの検討 P 11
- 「空き家活用を通じたエリア活性化プロジェクト」の検討・試行 P 12
- NPO 法人横浜市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の事業事務局代行 P 13

◇ 市民の目を活かした評価事業

- ・ 福祉サービス第三者評価・指定管理者第三者評価…………… P 15
- ・ 障がい者保養施設宿泊モニタリング…………… P 15

◇ 地域活動支援事業

- まちかどケア（認知症ケア）関連事業
 - ・ 認知症サポーターキャラバン…………… P 17
 - ・ 認知症カフェ事業…………… P 18
 - ・ 認知症介護実務者向け研修…………… P 18
- よこはま地域づくり大学校
 - ・ 第 7 期 泉区まちづくりみらい塾…………… P 20
 - ・ 第 7 期 西区地域づくり大学校…………… P 20
 - ・ 第 4 期 神奈川区地域づくり大学校…………… P 21
- 都筑区シニア★スター養成講座…………… P 21
- ヨコハマ市民まち普請事業…………… P 22

◇ クロスセクター事業

- ・ リビングラボ支援事業…………… P 25
- ・ 協働・共創スキルアップ道場…………… P 29
- ・ スタディツアー（企業・NPO 編）…………… P 31

・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

◆ 資料編

- 会員数の推移…………… P 34
- 収入額の推移と内訳…………… P 34
- 市民セクターよこはま沿革…………… P 35
- 2018 年度の役員・事務局スタッフ…………… P 36

2018 年度を振り返って

理事長 中野 しずよ

～ 活動の担い手層の変化への対応 ～

はじめに

2018 年度方針の中で、次代を担うリーダーや中堅世代・若者たちのエネルギーへの期待について書きました。そこで、活動実践者の年代層ごとのキーワードを通して、この 1 年を振り返ってみます。

当法人のさまざまな事業を通して、あらゆる年代の活動実践者のお話をお聞きしています。「草の根・地域への愛着・ボランタリー」などをキーワードに活動を行う年代層（60 代後半～70 代）、「自分たちの価値観・多様性の認め合い・自主財源」などをキーワードに活動を行う年代層（30 代後半～40 代）に大きく分かれ、その中間の 50 代～60 代前半の年代層は、両方のキーワードをゆるくもっているように見受けられます。

さらに若い 20 代～30 代後半は、「感性・自分らしさ・自前」などがキーワードのように感じています。「個」がたっていて、その「個」が「別の個」をみつけ、お互いを引き出し合う関係を紡ぐなかで、活動に発展していくのではないかと捉えています。

これらはあくまで傾向であり、活動はもちろんバリエーション豊かに実践されています。ただ一点言えることは、世代層を問わず、「就労社会」となり、子育て中でも、シニア層でも、多くの方が働き続ける中であって、活動に専念できる人はごく一部。しかし興味・関心や自身の課題・当事者性を活かし、何かやってみたいと考えている人は多く、6 割を超えています。

※参考：横浜市民生活白書 2019.P104

「仕事をもちながら、プラスαとしての活動」

「仕事をもちながら、プラスαとしての活動」と考える人が増えてきており、働き方改革も少なからず影響を与えていることが推察されます。

世代ごとに価値観が違ふこと、働きながら活動することが半ば前提であることを認識し、夜間や休日に活動できる魅力的な受け皿・活躍の場所となっていくことで、新たな活動層と出会うことができると思います。今新しい担い手層が集まってきている団体の中には、これらの戦略を意識的にとっている団体が多くあります。そしてこのことは、団体のミッション・ビジョンへの共感が、企業等で就労している人にも広がっていくことにもつながります。

一方、就労社会とはいえ、さすがに 70 才を超えると、仕事をリタイアする方が増えますので、その世代が抵抗なく始められる活動の受け皿・活躍できる環境づくりも必要となります。

仕事をしている、仕事をし続けてきた、そして活動に興味がある人々、そして「自身の感性に向き合って（現状への違和感も含む）動き出そうとするひとり」をどう発見しサポートしていくのが、これからますます重要になるのではないかと。そのことが改めてわかったこの 1 年でした。

2018 年度の重点事業について

① 「リビングラボ支援事業」(旧：人が出会い集う場の豊かさ実践事業)

人が出会い、集う場が生まれ、お互いの力を発揮し合い、生き生きとした場をつくるためには、様々な立場の者同士が実践を共有し、それぞれが取り組む課題への理解を深めることが必要と考えていたところ、横浜市内各地でリビングラボの取り組みが始まりました。そこで主に 5 つのリビングラボ※に参画し側面的に関わりました。(※リビングラボ：本文 P25 参照)

またリビングラボを実践するコアメンバー等を対象に、コミュニティ・オーガナイズをテーマとした学び合いの機会（丸 1 日×2 日間）をつくり、より豊かな場の創出につながるよう図りました。

これらの取り組みにより、これまでなかなか出会うことができなかった、活動実践者、中小企業の経営者、大企業の研究開発部門の方、大学研究者等とご縁がつながり、そのような中から、(株)NTT ドコモの研究開発部門との協業の取り組みも生まれました。組織的な視野が大きく広がった年となりました。

② 中間支援機能をもつ組織のゆるやかなネットワーク化の働きかけ

横浜市市民活動支援センター事業で、「中間支援組織が連携した相談事業」があり、2018年度は、16 団体が参画しました。その集まりの中で、「災害時のプラットフォーム型組織」「地域基金」の必要性等が話し合われました。そこで、支援センター事業とは別に、民間中間支援組織同士のゆるやかなネットワーク化について、2019 年度から取り組んでいくことになり、次のステップにつなげることができました。

③ 「シニア総合情報センター」（仮称）の開設を目指して

「民の立場」でさまざまなシニアのニーズに応えていく「シニア総合情報センター」の開設を目指していますが、財源の問題が大きくあります。

一方で、地域包括ケアが制度的に目指される時代にあって、当事者や家族が本当に欲しい情報を民間でありながら、中立の立場で収集・発信・提供できる機関に対するニーズの大きさについて、さまざまな場面で実感しました。引き続き、準備していきたいと考えます。

まとめ

当法人として、リビングラボ支援に取り組んだことで視野が広がり、大企業との協業に踏み出したことで、行政以外のセクターと連携する意義を強く実感することもできました。

また、中間支援機能をもつ組織と、顔の見える関係、お互いの強み・弱みも含め、深く知り合えたことは、大きな財産となりました。

これらの取り組みは、常勤職員 9 名を中心に、手分けして現場に行き、話し合いの場に参画し、記録を残し、次を提案するなど、プロジェクトの推進役の経験値を高めることにつながりました。

人材育成を重点とし、職員企画の事業には実はあまり取り組めませんでしたが、外部からチャンスをいただき、それぞれの職員が積極的に取り組めたことは、今後に大きく生きると考えています。

運営に関する事項（法人総務）

(1) 会員

● 会員数

2018年3月31日時点：137

【正会員 123】団体 41/個人 82、【準会員 8】団体 3/個人 5、【賛助会員 6】団体 2/個人 4

↓

2019年3月31日時点：114

【正会員 103】団体 36/個人 67、【準会員 7】団体 2/個人 5、【賛助会員 4】団体 2/個人 2

● 社員総会（会員総会）

日 時：2018年5月20日（日）

会 場：井土ヶ谷アーバンデザインセンター おひさま広場

参加者：正会員：60名（うち書面表決5名、委任状37名 ※正会員数99名）

第16回 通常総会

※各担当者による事業説明会を実施。

(2) 理事会

● 開催日

2018年：4月24日、6月26日、7月31日、8月28日、9月25日、10月30日、
11月27日、12月18日

2019年：1月29日、2月26日、3月26日

● 議 題

総会企画・議案、予算・決算、事業報告・計画、横浜市支援センター事業

にしく支援センター事業、次年度組織体制、役員人事、職員の採用・給与・賞与、等

(3) 各団体・行政機関等の委員の受任

行政や社会へ提言、市民参画の拡大の為、さまざまな団体等の委員を引き受けています。

〔横浜市・健康福祉局〕

- ・ 横浜市社会福祉審議会 委員（中野）
- ・ 横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員（中野）
- ・ 横浜市福祉有償移動サービス運営協議会 委員（山野上）
- ・ 横浜市福祉サービス第三者評価推進委員会 委員（吉原）
- ・ 横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員（竹谷）

〔横浜市・政策局〕

- ・ 横浜市男女共同参画審議会 委員（齋藤）

〔横浜市・こども青少年局〕

- ・ 横浜市親と子のつどいの広場事業選定委員会 委員（中野）
- ・ 横浜市こども青少年局ユースプラザ選定委員（吉原）

〔横浜市・温暖化対策統括本部〕

- ・ 横浜市環境未来都市計画懇談会 委員（中野）

〔横浜市・環境創造局〕

- ・ 横浜市公園公民連携推進委員会 委員（松本）

〔横浜市社会福祉協議会〕

- ・ 横浜市社会福祉協議会企画委員（中野）
- ・ 横浜市社会福祉協議会よこはまふれあい助成金運営委員会 委員（吉原）
- ・ 横浜市社会福祉協議会「福祉よこはま」編集委員（山田）
- ・ 横浜市社会福祉協議会福祉ボランティア・市民活動部会 委員（山田）

【県域・市域】

- ・ 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 理事（中野）
- ・ 横浜市男女共同センター参画公募事業 選定委員会 委員（中野）
- ・ 横浜市男女共同参画センター第三者評価委員（井上）
- ・ NPO 法人横浜移動サービス協議会 評議員（中野）
- ・ 横浜市芸術文化振興財団ヨコハマアートサイト選考委員（松本）
- ・ かながわ協働推進協議会および、条例検討部会委員（吉原）

- ・ 生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ 市民活動支援運営委員会委員（加世田）

【区域】

- ・ 瀬谷区地域福祉保健計画懇談会委員（中野）
- ・ 瀬谷区社会福祉協議会 企画委員（中野）
- ・ 港南区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 委員（中野）
- ・ 青葉区福祉活動拠点指定管理者選定委員会 委員（中野）
- ・ 横浜市青葉区地区センター指定管理者選定委員会委員（加世田）

[講師等の受任]

【市域】

- ・ 移動サービス運転ドライバー安全運転講習（中野）
- ・ 区支援センター新任者研修・フォローアップ研修 講師・ファシリテーター（吉原・関尾）
- ・ 区支援センターネットワーク会議連続 4 回 講師・ファシリテーター（吉原・関尾）
- ・ 横浜国大リビングラボ 講師（吉原）
- ・ 横浜市社協あんしんセンター成年後見 NPO 向け講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 横浜市政策局共創フォーラム 報告者（吉原）
- ・ 横浜市市民活動支援センタートップマネジメントセミナー 講師（吉原）
- ・ 横浜市市民活動支援センターブラッシュアップセミナー企業との協業テーマ 講師（吉原）
- ・ 協働・共創スキルアップ道場連続講座 講師・ファシリテーター（吉原）

【区域】

- ・ 西区地域ケアプラザサブコーディネーター研修会（中野）
- ・ 泉区社会福祉協議会 地区社協ミニ研修（中野）
- ・ 栄区社会福祉協議会 ボランティア部会研修会（中野）
- ・ 緑区キャラバンメイトフォローアップ研修 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 栄区地域福祉活動計画推進（担当職員向け）研修 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 南区おもいやり隊伴走支援事業 講師・ファシリテーター（吉原・関尾）
- ・ 中区 NPO 入門講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 磯子区活動資金講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 西区地域づくり大学校連続講座 講師・ファシリテーター（吉原）

- ・ 神奈川区地域づくり大学校連続講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 都筑区主催シニア☆スター養成連続講座&フォローアップ 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 泉区まちづくりみらい塾連続講座 講師・ファシリテーター（吉原）

【その他】

- ・ 社会福祉法人 青い鳥 新入職員研修会（中野）
- ・ 社会福祉法人 青い鳥 子育て部門研修会（中野）
- ・ みやぎ連携復興センター自治会長向け講座・ファシリテーター 2回（吉原）

(4) 他団体の会員として

下記の団体に会員として参画しました。

- ・ 認定 NPO 法人 日本 NPO センター
- ・ NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
- ・ 認定 NPO 法人 市民福祉団体全国協議会
- ・ 一般社団法人 全国食支援活動協力会
- ・ 公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会
- ・ 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
- ・ NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター
- ・ 神奈川県居住支援協議会
- ・ 一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク

事業に関する事項

【市民活動支援事業】

■ 横浜市市民活動支援センター運営事業

（横浜市市民局市民活動支援課と協働契約を締結し実施しました）

別紙「2018（平成 30）年度横浜市市民活動支援センター事業報告書」をご覧ください。

■ にしく市民活動支援センター（にしとも広場）運営事業

（横浜市西区役所と協働契約を締結し実施しました）

別紙「2018（平成 30）年度にしく市民活動支援センター事業報告書」をご覧ください。

■ NPO 法人事業化パワーアッププロジェクトの検討

成果と課題

成果

- 西日本視察を通じて、NPO 法人岡山 N P O センター（岡山県）と N P O 法人アカツキ（福岡県）による事務支援等の取組みについてヒアリングを行いました。
- 横浜市市民活動支援センターとして、横浜市市民局市民活動支援課（NPO 認証班）とともに「NPO 法人設立認証申請の手引き」を改訂。NPO 法人の解説に加え、ワンポイントアドバイスを交えたことで、法人運営のより具体が分かるような内容になりました。
- 上記手引きを活用し、「N P O 法人の事務 ミニ講義＆相談会」「N P O 法人スキルアップジム」を実施しました（横浜市市民活動支援センター事業）。
- 「N P O 法人トップマネジメントセミナー」「N P O 法人ブラッシュアップセミナー」を新たに企画し、NPO 法人の「継続的かつ自立的な組織・事業運営」「NPO と企業の

協業」をテーマにしたセミナーを開催しました。（横浜市市民活動支援センター事業）。

※横浜市市民活動支援センター事業については、別途、報告書に詳細を記載

課題

- 当初、計画に挙がっていた、認定 NPO 法人制度の普及に向けては、先行して行われている取組みを参考にしながら、さらに制度に詳しい税理士の方とともに進めていく必要があります。
- NPO 法人の支援事業について、主にセミナーの開催に関しては、今後、法人の自主事業として実施していけるよう、周知方法の検討などを進めていきます。

■「空き家活用を通したエリア活性化プロジェクト」の検討・試行

本プロジェクトでは、空き家活用で課題となっている耐震化や修繕、活用に至るまでをコーディネートするスキームの構築と、空き家単独の活用だけでなく、空き家のあるエリア全体を「面」として活性化させていくことを目指し、2018 年から 1 年かけリサーチを重ねてきました。

成果と課題

成果

横浜市内における様々な空き家活用をめぐる課題を法人内で蓄積することができました。具体的には、横浜市内の空き家を活用したい市民活動団体や、自身の空き家を活用して欲しいオーナーにとって、ハード面での整備だけでなく、地元住民との関係づくりや、継続的で安定した事業づくりへの支援ニーズが高いこと、当法人の強みであるソフト面での支援が求められていることがわかりました。

課題

今後は、空き家活用のハード面でのノウハウを持つ団体や企業と連携しながら、空き家活用の相談に来られた団体・オーナーに対して、ハード面・ソフト面両面での総合的な支援が実施できるよう、体制を構築していく必要があります。

実施したこと

- 非営利団体における不動産事業の展開など、国内外の類似事例について、北九州市などで現地視察を行いました。
- 横浜市民活動支援センターに寄せられる、団体またはオーナーからの相談に対応し、空き家物件の見学や、具体的活用について意見交換・アドバイスをを行いました。
- また共同オフィス入居団体有志と、西区老松町にある空き家を見学し、事務所と共同オフィスでの利活用が可能か検討しました。

■ N P O 法人横浜市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の事業事務局代行

特定非営利活動法人横浜市小規模多機能居宅介護事業者連絡会は、横浜市内の小規模多機能居宅介護事業者の連絡連携ならびにその職員の資質の向上に資する事業をおこなっています。しかし、法人のメンバーが皆、各々の事業所に属しているため、N P O 法人の事務局としての業務は、活動時間の捻出や作業場所の確保などの点から、スムーズな運営がしにくい状況にあります。昨年に引き続き、事業運営事務局の一部を受託しました。

成果と課題

成果

総会資料や経理関係の流れの確認・書類の作成、ホームページの更新、横浜市セミナーの申込み受付・連絡など、連絡会の役員と連携して運営することができました。

課題

法人としては、連絡会の正会員の状況確認の必要性や、連絡会ホームページ内の会員ページの充実が待たれるなど、解決すべき課題は多くありますので、理事長他メンバーと一層の連携をとり、課題解決に向け協力をしていきます。

事業の概要と実施したこと

○ 総会準備

経理関係書類を確認し、総会資料の中の特に決算書類を作成しました。

○ 連絡会

年5回の開催に関し、会場予約、参加申込受付、参加者名簿作成などを実施しました。

○ 横浜市委託事業のセミナー

年5回の開催に関し、セミナー案内チラシの作成、参加申込受付、参加者名簿作成、セミナー使用資料の印刷等準備などを実施しました。

○ 交換研修のコーディネート

施設同士で職員を1日交換する研修です。研修案内から申し込み、施設間のコーディネート、実施後の報告集約をしました。

○ ホームページ更新作業

会員施設の情報、連絡会やセミナーの開催日程・内容等について、ホームページを都度更新。更新に当たっては、役員と内容確認しながら進めました。

【市民の目を活かした評価事業】

■ 第三者評価事業

- 福祉サービス第三者評価事業・指定管理者第三者評価事業
- 障がい者保養施設宿泊モニタリング

成果と課題

成果（経緯）

年度当初は数件と想定していたところ、評判を聞いたなどで新規園の依頼が入り、福祉サービスでは保育園を10件実施しました。指定管理では、当法人指名で1件実施しました。調査員の質の高い調査・報告により、当法人の評価実施に対する嬉しいコメントを多くいただきました。

課題

- 障がい分野や高齢分野での実施がいまだ少ない状況にある中、‘障がい施設や高齢施設こそ第三者評価は有効かつ必要’と、健康福祉局の福祉サービス第三者評価推進委員会において委員として提言を行い続けたこともあり、来年度は受審料の半額補助を実施するとの発表がありました。これを機に、施設をもつ法人に働きかけるなど、積極的に評価の効果や意味を伝えていく必要があります。
- 評価項目が、神奈川版で県下統一することとなりました。評価項目は統一されますが、評価手法は評価機関にゆだねられます。当法人の評価手法を確立させる必要があります。
- 今後も依頼が増えると考えられるため、事務局を担うことができる職員の育成が必要です。

事業の概要と実施したこと

<福祉サービス第三者評価事業>

福祉サービスの質の向上のために、横浜市の評価基準を使用して福祉施設の評価を行いました。評価の結果は公表するとともに、事業者（施設）との対話の中から、次のステップへの「気づき」が生まれることを目指しました。

【評価完了案件（順不同）】

分野	施設名	運営主体
保育	横浜市かながわ保育園	社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団
	テンダーラビング保育園綱島東	(株)テンダーラビングケアサービス
	尻手すきっぷ保育園	(株)俊英館
	横浜すきっぷ保育園	
	ゆうぽーと保育園	社会福祉法人貴静会
	プレススクールあおば	特定非営利活動法人プレススクールあおば
	クオリスキッズ鴨居駅前保育園	(株)クオリス
	ベネッセ矢向保育園	(株)ベネッセスタイルケア
	こまつな保育園	横浜中央市場保育園株式会社
	レインボー保育園	社会福祉法人レインボー保育園

<指定管理者第三者評価事業>

施設名	運営主体
横浜市西地区センター・西公会堂	アクティオ株式会社

<障がい者保養施設宿泊モニタリング>

障がいのある方にとって、生活の質（ＱＯＬ）の向上を図る上で、「障がいのある方とその家族が安心してご利用いただけるくつろぎの空間」（パンフレット・HPより）である当該施設の存在は、地域社会の貴重な社会資源です。当該施設には、宿泊施設としての機能のほか、研修やレクリエーションなどを行う設備もあり、障がい者及び障がい教育・障がい福祉等の関係機関への周知が行き届き活用への意識が広がることは、施設の社会資源としての価

値がより向上すると思われます。

昨年に引き続き、横浜移動サービス協議会にモニタリング調査を依頼し、障がいのある方が、お一人で、または介護者やヘルパーとの同行で、4回に分けて実施しました。

その障がいの状況によっても気になることや視点は異なります。多様な障がいを持つ方々が求めているのは「平均的な対応」ではなく「個々別々の対応」であることを、改めて感じる結果となりました。

【地域活動支援事業】

■まちかどケア（認知症ケア）関連事業

「認知症になっても住み慣れたまちで本人も家族も安心して暮らせるようなまちづくり」をめざして、ご本人と家族を温かく見守ることができるよう、認知症を正しく理解する場をつくるとともに、地域における居場所としての認知症カフェの取組みの推進に取り組みしました。

成果と課題

【1】認知症サポーターキャラバン（横浜市健康福祉局との協働事業）

成果

- 認知症キャラバン・メイト養成研修を5回実施し、229名の新しい認知症キャラバン・メイトを養成しました。
- 本年度、市内で実施された認知症サポーター養成講座は、795回、合計34,052名の認知症サポーターが養成されました。
- 昨年度に引き続き、「認知症キャラバン・メイト交流会」を実施しました。
- 「認知症サポーター養成講座見学会」として、4回の見学会を行いました。

課題

- より一層、認知症の方への理解がすすむために、実際に活動できる認知症キャラバン・メイトを増やす必要があります。認知症キャラバン・メイト養成研修のプログラムの工夫や、研修を受けた直後に、地域の支援者や先輩メイトとつながるきっかけづくりも必要です。今後は、認知症サポーターの活躍の場についても検討します。

【2】認知症カフェ事業

成果

2017年度の認知症カフェフォーラムに引き続き、認知症カフェ実践者が集い、学び合う場として認知症カフェフォーラムを実施しました。取り組みが徐々に広がるなか、互いの活動について知り合い、自らの場を振り返る機会となりました。また、これからカフェに取り組みたいと考えている方のきっかけの場となりました。

課題

「歩いて行ける範囲に認知症カフェがある」ためには、その取り組みが広がるとともに、場が継続していくことが大切です。ゆるやかにカフェ同士が繋がり合い、認知症の当事者本人が輝ける場について考え合う場づくりに引き続き取り組むことが課題です。

【3】認知症介護実務者向け研修

成果

介護の専門職を対象とした本研修は、入職後、日が浅い方を主な対象とした連続講座としました。

今回は、研修初日の基調講演に公益財団法人日本認知症グループホーム協会顧問である川崎幸クリニック院長 杉山孝博氏をお招きしました。「認知症と向き合うということ」の演

題で、認知症の特徴、初期段階のとらえ方、パーソンセンタードケアの必要性と共に、家族への支援の重要性、地域での認知症理解の促進により、双方にとって有効な BPSD 症状への適切な対応などを大変わかりやすく講義いただきました。

初日に講演でしっかりと基本を理解した後、現場で活躍している講師陣による講義やグループワークで学んだ 3 日間は、介護現場での毎日のケアに直結するものとなりました。本人本位の視点をきちんと理解し、介護実務者としての軸に気づくきっかけとして、今年度も、大変有効な研修になったと思われます。

また、本研修終了後のアンケートでは、講座内容について「大変よかった」「よかった」との評価が 97%あり、満足度の高い研修となりました。

課題

全体を通して「認知症本人の方に寄り添うケア」についての基礎を理解する研修となりましたが、継続して学びを深めたいという声や、介護従事者だけでなく認知症カフェ運営者などからも当講座を受講したいという声があり、今後の方向性を検討していく必要があります。

事業の概要と実施したこと

【1】認知症サポーターキャラバン

横浜市との協働事業として、認知症サポーターキャラバンの横浜市の事務局を担っています。日常的には、認知症キャラバン・メイトが認知症サポーター養成講座を実施するにあたってのサポートと計画書・報告書のとりまとめを行い、認知症キャラバン・メイト養成研修を 5 回実施しました。また、各区から認知症キャラバン・メイトと区役所担当職員、地域ケアプラザまたは区社会福祉協議会職員の 3 者が一緒に参加する「認知症キャラバン・メイト交流会」を実施しました。

※詳細は、別添の報告書をご覧ください。

【2】認知症カフェ事業

「認知症カフェフォーラムもっともっとIV～わたしのための居場所づくり～」の実施

認知症の方もそうでない方にとっても大切な「居場所」づくりについて3つの事例から学び、フォーラムを実施しました。

【日時】2019年3月15日（金）10:30～15:45

【会場】横浜情報文化センターホール

【参加者数】87名（登壇者・ボランティア・運営スタッフ含む）

【プログラム】

実践報告1『地域のなかで役割を持つこと』

小塚 秀忠 氏 （世田谷地域共生のいえ 岡さんのいえTOMO見守り隊員）

実践報告2『大倉山ミエルから広がる地域のつながり』

鈴木 智香子氏 （NPO法人街カフェ大倉山ミエル 代表）

実践報告3『桂台カフェ・NFの会と地域ケアプラザの取組み』

渡辺 久江 氏（桂台カフェ 代表）

高橋 ゆき子氏（桂台地域ケアプラザ）

コーディネーター：吉原 明香

グループワーク 「旅のことば研究会 in 横浜」

岡田 誠 氏 （一社）認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ 共同代表理事

【3】認知症ケア実務者向け研修

「認知症ケアの基本 ～日々のもやもや、これで解決！～」(全3回講座)

【日時】2018年10月18日、11月14日、12月12日 10:00～17:00

第1回 基調講演「認知症と向き合うということ」

杉山 孝博（川崎幸クリニック院長・精神科医）

○認知症ケアの歴史を知り、これからの認知症ケアを考える

第2回 ○本人本位の視点を磨く

○認知症の方本人に寄り添うケア実践編①

～ロールプレイ、チャレンジプログラムを通じて～

第3回 ○認知症の方本人に寄り添うケア実践編②

～ひもときシートの活用方法、事例検討～

○認知症ケアの基本+a ～認知症ケアに必要な知識・技能～

メイン講師

井上 義臣 氏 高齢者グループホーム横浜ゆうゆう

スーパーバイザー

富田 克利 氏 ゆい藤ヶ丘 居宅介護支援

長本 節子 氏 高齢者グループホーム横浜はつらつ

村井 キヌエ氏 横浜市総合保健医療センター

村上 美佳 氏 有料老人ホームタ佳ゆめみがさき



■ よこはま地域づくり大学校

（1）第7期 泉区まちづくりみらい塾

（泉区まちづくりみらい塾および横浜市泉区役所との協働事業）

別紙「2018（平成30）年度泉区まちづくりみらい塾 報告書」をご覧ください。

（2）第7期 西区地域づくり大学校（横浜市西区役所との協働事業）

別紙「2018（平成30）年度西区市民活動支援センター 報告書」をご覧ください。

（３）第４期 神奈川区地域づくり大学校（横浜市神奈川区役所等との協働事業）
別紙「2018（平成 30）年度神奈川区地域づくり大学校 報告書」をご覧ください。

■ 都筑区シニア☆スター養成講座

（横浜市都筑区役所・地域ケアプラザとの協働事業）

別紙「2018（平成 30）年度 都筑区シニアスター養成講座 報告書」をご覧ください。

■ ヨコハマ市民まち普請事業

（横浜市都市整備局地域まちづくり課、NPO 法人アクションポート横浜と協働契約を締結し実施します。）

三者協働によるヨコハマ市民まち普請事業の事務局運営を行いました。

成果と課題

成果（経緯）

横浜市指定 NPO 法人アクションポート横浜、横浜市都市整備局地域まちづくり課との三者による協働運営は 10 年目に入りました。とくに、事業の周知では、幅広く広報することに努め、多くの応募につながりました。

課題

今後も、市民主体のまちづくりにつながる制度として、多くの市民がチャレンジできるよう、事業の周知方法や、コンテストの実施方法等について工夫していく必要があります。

事業の概要と実施したこと

「私たちのまちを、私たちがつくる！」そんな思いをカタチにするための地域協働のきっかけづくりとなる事業です。身近なまちのハード整備に関する提案を募集し、2 回の公開コンテストで選考された提案に対して最高 500 万円の整備助成金が交付されます。

今年度、当法人では、主に、整備箇所現地視察、コンテストの運営補助（記録、設営・備品）および広報を行いました。

◆ 公開 1 次コンテスト

【日時】 2018 年 7 月 14 日（土）

【会場】 横浜みなとみらい 21 プレゼンテーションルーム

12 グループからの提案のうち、7 グループが 2 次コンテスト対象提案として選考されました。

◆ 平成 29 年度 整備箇所視察ツアー

【日時】 2018 年 10 月 6 日（土）

まち普請事業 29 年度整備箇所の視察ツアーを企画・運営しました。

提案名	グループ名
【戸塚区】 地域のインテリジェンス「ぷらっと 谷矢部」づくり	谷矢部池公園愛護会
【保土ケ谷区】 「ひと」「まち」「こと」のふれあい広場	F M 上星川

◆ 公開 2 次コンテスト

【日時】 2019 年 1 月 26 日（土） 【会場】 横浜市民活動支援センター 4 階

公開コンテストの結果、以下の 3 提案が整備助成対象提案として決定しました。

提案名	グループ名
【鶴見区】 鶴見の多文化・多世代の共創拠点づくり まちのリビング	つみれプロジェクト実行委員会
【南区】 世代を超えた集いの場にするための拠点づくり	おもいやり隊
【金沢区】 歴史と環境をテーマに安心して楽しめる里海公園づくり	富岡並木ふなだまり gionbune 公園愛護会

※コンテスト業務のほか、まち普請事業部会や関連イベント（活動懇談会／H29 整備成果報告会／まちづくりびと全員集合）に参加しました。

◆まち普請事業に関する広報の取組み

制度やコンテストをはじめとする関連事業の広報として、以下の取組みを行いました。

- 横浜市市民活動支援センターにおける事業を通じた広報
 - ・ メールマガジン「アニマートピコ」：各イベント・応募案内
 - ・ つながりのまちづくりフォーラム：フォーラムでのイベントの周知、情報コーナーの設置

- 法人事業を通じた広報
 - ・ 西区地域づくり大学校：まち普請事業の制度紹介
 - ・ 都筑区シニア★スター養成講座：まち普請事業の制度紹介
 - ・ 神奈川区地域づくり大学校：まち普請事業の制度紹介
 - ・ 泉区まちづくりみらい塾：まち普請事業の制度紹介
 - ・ 認知症カフェフォーラム：まち普請事業の制度紹介

【クロスセクター事業】

■リビングラボ支援事業

リビングラボとは、地域住民と企業・NPO 法人・大学研究機関や行政が地域の課題を解決したり、新たな価値を創造したりするために、セクターを超えた対話を重ねてニーズを可視化し、データを集め、革新的な持続可能なサービスソリューションなどを生み出すための仕組みをいいます。

横浜においては、地域課題を解決することを目的に市内各地でリビングラボが立ち上がっています。

私たち市民セクターよこはまは、市内のリビングラボの内、南区の井土ヶ谷リビングラボ、西区の平沼リビングラボ、都筑区リビングラボ、旭区の中白根リビングラボ、磯子区杉田リビングラボの、主に 5 つの地域の支援をしました。

成果と課題

【1】リビングラボ支援事業

成果

5 つのリビングラボに継続的に関わり続けることで、それぞれの地域が抱える地域課題について深く理解することができました。また、井土ヶ谷リビングラボでは、井土ヶ谷地域の空地を活用したイベントを実施することが決まり、中白根地域においても、継続的なイベントが実施されるようになりました。地域の取組みに法人職員が継続的に関わることでできています。

課題

リビングラボ支援の取組みを行うなかで、プロジェクト支援の難しさを痛感しました。各リビングラボの担い手が継続的にリビングラボを運営し、取組を発信していくために、中間支援組織としてどのように関わっていくのか、支援のあり方の検討や、力量アップの必要を認識しました。

事業の概要と実施したこと

2018年度は以下のリビングラボに参画しました。

日 程	内 容	参加者
5月10日（木）	平沼リビングラボ	吉原、加世田
5月17日（木）	磯子杉田リビングラボ	吉原
6月8日（金）	神奈川区リビングラボ	吉原
6月21日（木）	平沼リビングラボ	吉原
7月4日（水）	都筑リビングラボ	吉原
8月7日（火）	国大リビングラボ	吉原
8月7日（火）	金沢八景リビングラボ	吉原
8月9日（木）	井土ヶ谷リビングラボ	吉原 嶋田
8月10日（金）	井土ヶ谷リビングラボ	関尾
8月14日（火）	都筑リビングラボ	関尾 嶋田
8月25日（土）	金沢八景リビングラボ	吉原
8月30日（木）	青葉区リビングラボ	吉原
9月20日（木）	金沢八景リビングラボ	吉原 嶋田
9月21日（金）	平沼リビングラボ	藤崎
9月26日（水）	都筑リビングラボ	吉原 嶋田
10月4日（木）	平沼リビングラボ	加世田
10月20日（土）	杉田・磯子リビングラボ	吉原 薄井
10月20日（土）	井土ヶ谷リビングラボ	薄井
10月26日（金）	寿リビングラボ	吉原
11月1日（木）	平沼リビングラボ	加世田
11月23日（金）～ 24日（土）	平沼リビングラボ マルシェ	吉原、加世田、藤崎、山田
12月12日（水）	中白根リビングラボ	関尾、山田
12月13日（木）	井土ヶ谷リビングラボ	嶋田
1月17日（木）	共創フォーラム （リビングラボテーマ）	吉原、関尾、薄井、嶋田
2月18日（月）	平沼リビングラボ	加世田

【2】リビングラボスキルアップ研修

横浜のリビングラボの特色である地域課題解決型の取組みを、より前に進めることを目的に、コミュニティ・オーガナイズ※の手法を用いた2日間の研修を実施しました。

コミュニティ・オーガナイズとは：

市民の力で社会を変えていくための方法・考え方です。オーガナイズとは、人々が関係を作り、物語を語り、立ち向かう勇気を得て、人々の持つ資源を問題解決能力に変える戦略をもって行動を起こし、活動を広げ、組織を作り、社会に変化を起こすことです。普通の市民が立ち上がり、それぞれが持っている力を集結して、市民主導で政府、企業など様々な関係者を巻き込みながら、持続可能な社会・地域づくりにつなげることを目指すにはどのようにしたらよいのかをワークショップを通して学びます。

成果（経緯）

「2日間で課題解決のためのプロセスを疑似体験」

コーチに任せるのではなく、自分たちでチームを構築し、疑似体験するのが研修の特徴です。

1日目は緊張し、グループワークや発表の場でも少し躊躇していた参加者が、2日目になると意見出しも交流も積極的に行われるようになりました。

「関係者・ターゲットの見分け方」

「チームの目標とゴールの設定方法」

「解決に向かうためのストーリーをどのように行動に繋げていくのかをチームで検討」

「課題に対して最終的なゴール設定」

「過程における戦略的ゴール」

「同志（協力者）、具体的な方策」

「解決後のイメージ（イラスト）を模造紙に描き、全体発表」

時間が細かく設計されたワークショップは、参加者ひとりひとりに意見を集約させようという意識を生み、ひとつひとつの話し合いが濃い内容となりました。

グループワークは、過去の受講生がコーチ（グループリーダー）となって学びの先導をすることで、理解をより深めることが出来ました。



課題

リビングラボごとに社会課題解決のプロジェクト化から計画、実施・検証まで行うには、2日間の研修だけでは不十分のため、必要に応じて研修以後に伴走していく必要があります。

事業の概要と実施したこと

【開催日】2019年1月12日～13日

【参加者数】19名

【会場】富士通エフサス みなとみらい Innovation& Future Center

<プログラム>

今回の研修では、各6人の3つのグループに分かれ、2日間かけて実践プランを作りこみました。

- Aグループ：空き家・空地活用（磯子・杉田リビングラボ）
- Bグループ：農業×福祉の連携（中白根リビングラボ）
- Cグループ：認知症当事者を取り巻く問題について



一方的に自らの価値観を相手に押し付けるだけでは、理解や共感の獲得につながらないことが、研修から学ぶことができました。

■協働・共創スキルアップ道場

地域課題、社会課題に応じて多様な主体がつながって、関係性の作り方、事業を形にするための提案スキル、協働・共創の手法を学び合いました。

成果と課題

成果

NPO、行政、企業、25 名の方がご参加、協働・共創の基礎、また事例を学び、一人一人アクションプランを作成・発表しました。



課題

第2回、第3回で作成した「アクションプラン」を実行に移す際、日ごろから事業の相談、また伴走支援ができる仕組みを構築する必要があります。また協働・共創を学ぶ機会として、少なくとも全5回の講座でカリキュラムを組み立てることで、更に学びを深めることができると思います。

実施したこと

【全体プログラムの検討】

横浜市市民局市民活動支援課、政策局共創推進課の3者協働で、プログラムの検討、全3回のプログラムを実施いたしました。

【講座（プログラム）の実施】

<1回目>2019年2月25日（月）18:00～20:30

- 協働・共創の意識作り
- ボードゲームを通して、協働・共創を体験する
講師：溝呂木俊介氏他 ナビゲーターの皆さま
 - ・他者との関係の築き方
 - ・頭でっかちにならない対話とは

<2回目>2019年3月8日（金）18:30～20:30

- 横浜市の協働・共創の歴史を紐解く
- 事例紹介
 - ◆（株）太陽住建 河原 勇輝 氏
 - ◆アオバ住宅社 齋藤 瞳 氏

◆ NPO 法人のはらネットワーク 西田 清美 氏

○ アイディアプラン作成トレーニング（講義→個人ワーク）

<3 回目> 2019 年 3 月 20 日（水） 18:30～20:30

○ アイディアプラン実現に向けて、お披露目会

○ 演習：グループワーク・講義

■ スタディツアー（企業・NPO 編）

（神奈川県 NPO 協働推進課と協働契約を締結し実施しました）

神奈川県が実施しているパートナーシップ支援事業の一環として、当法人と実施する事業。今回は、4 か所の現場訪問、2 つの会社による実践報告を通じて、空き家・遊休不動産の活用事例から、多くの人たちの参加・参画によって進められているソーシャルプロジェクトの取組みを学びました。

成果と課題

成果（経緯）

2 つの会社とも、本業にもつながる形で継続的に社会貢献に取り組んでいこうとしている点や、様々な人たちの参加・参画を広めていくための仕組みや取組みを行っている点で共通しており、空き家活用やプロジェクトに関心をもって参加された方たちにとって、多くのことを学ぶ機会となりました。

現場から得られた気づき

- ・ 地域の課題解決や魅力アップを進めていこうという目的を共有していくとNPOも地縁的団体も企業も、同じ視線に近づいて行くことが新鮮でした。また、自立的に事業を進めていく手法・考え方が進歩していて、隔世の感がありました。
- ・ 地域とのつながり、参加型の仕組みづくりの大切さ。一人ではできない課題をみんなで解決する“みんなで”というところが肝心のだと思いました。
- ・ 地域の人々を巻き込んだり、クラウドファンディングで共感を得ることなど人を巻き込んでいくためにイベントを行っており勉強になった。
- ・ バスツアーに一日参加させて頂いたことで、参加者の方々ともいろいろとお話しができて、良い時間になりました。インターネットや写真などで活動を拝見するよりも直接目で見て場を感じる事ができたのが良かったです。

課題

これまでのツアーでは、NPO・企業・大学等の連携・協働に関するプロジェクトを主に取り上げてきました。一方、例えば、NPOと企業においては、協業の形で新規事業を立ち上げ、課題解決に取り組むなどのケースも少しずつ見られるなど、連携・協働の事例も様々に展開していることから、事例・訪問先の選定にあたっては、積極的に情報収集に取り組んでいく必要があります。

事業の概要と実施したこと

スタディツアー（企業・NPO 編）

【日時】

2018年11月10日（土） 12:30～17:30

【参加者】

20名（NPO10名、企業6名、行政3名、教育1名）

【テーマ】

集まらなきゃ始まらない！集まるだけでは始まらない！

空き家・遊休不動産の活用事例から学ぶソーシャルプロジェクト

【訪問先実践報告】

1. 逗子桜山シェアアトリエ SAQLAB

廃工場のリノベーションプロジェクトで実現した、共創によるアトリエやオフィス、ガレージ、遊び場などとして使えるシェアスペース。

2. The Bath & Bed Hayama

参画型の「泊まれる蔵プロジェクト」から、葉山町の中心エリア・元町にある「古い蔵」を改装して生まれた宿泊施設。

3. Yワイひろば

空き家活用プロジェクトを通じて誕生した、コミュニティスペースとシェアオフィス機能を備えた拠点。

4. 新おひさま広場

企業が運営する地域交流拠点として、2017年に太陽住建の本社に「おひさま広場」として併設。2018年9月の本社移転に伴い、新たに開設された。

【実践報告】

- ・株式会社エンジョイワークス
- ・株式会社太陽住建



▲ 訪問先1：逗子桜山シェアアトリエ SAQLAB での実践報告の様子



▲ 訪問先2：The Bath & Bed Hayama での見学の様子



▲ 訪問先3：Yワイひろばでの実践報告の様子



▲ 訪問先4：新おひさま広場での、参加者みなさんによるふりかえりワークの様子

資料編

(1) 会員数の推移

	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08
合計	136	141	125	176	145	184	195	216	204	192

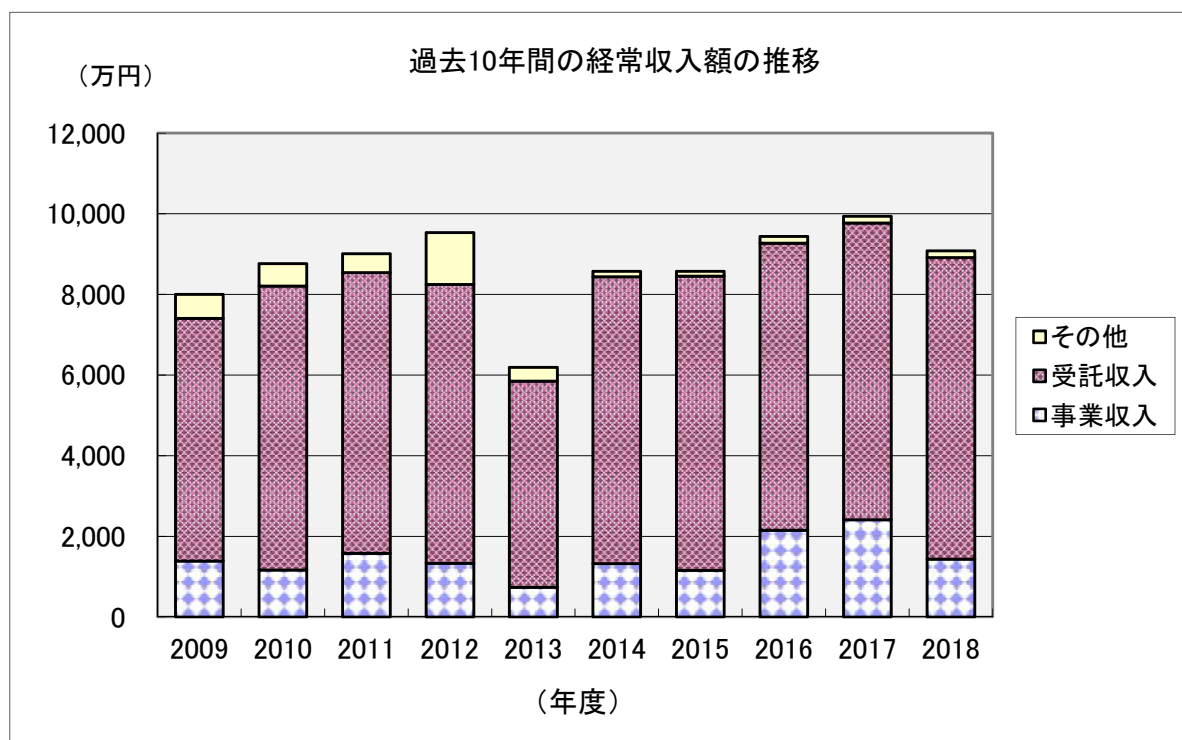
	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
合計	186	196	193	150	147	146	138	134	137	114

※ 各年度末（3月末）の数値です。

※ 正会員・準会員・賛助会員を合計した数値です。

※ 数年以上会費納入のない会員について、2012年度、2018年度に整理作業を実施しました。

(2) 収入額の推移と内訳



※ 受託収入＝行政からの委託事業（行政との協働事業）

※ その他＝会費収入・助成金収入・寄付金収入など

※ 借入金収入や前期繰越金は含めていない

※ 2013年度、第2事業部が独立

(3) 市民セクターよこはま 沿革

1998.7	「市民セクター構築のための研究会」発足
1999.9	市民セクターよこはま 設立 (9/28)
1999.12	横浜市への要望書提出「新しい公共の創造へ向けて」
2000.1	配食サービス連絡会発足
2000.9	横浜移動サービス協議会発足（移動プロジェクトより独立）
2001.7	デイサービス・サロン連絡会、事業型 NPO 連絡会発足
2002.2	横浜ワールドポーターズに「NPO スクエア」開設 同所に事務所移転
2002.7	NPO マネジメント支援プロジェクト発足（～2005.9）
2002.10	横浜市市民活動共同オフィスの管理運営を受託（～2009.3）
2003.4	NPO 法人「市民セクターよこはま」設立・登記（認証 4/1）
2003.5	設立総会、NPO 法人設立記念パーティ
2004.5	理事長松本和子退任、服部一弘就任
2004.7	横浜会議で研究テーマを提案、採択される
2004.8	認知症ケアマネジメント推進事業開始
2004.11	福祉サービス第三者評価事業開始
2005.6	地域福祉コーディネーター養成研修開始
2005.8	NPO 等に対する相談・アドバイス事業開始（～2008.3）
2006.5	「介護サービス情報の公表」に係わる調査事業開始（～2009.3）
2006.12	理事長服部一弘退任、松本和子就任
2007.1	横浜市指定管理者第三者評価事業開始
2007.10	コミュニティビジネス支援事業開始
2007.11	横浜市中区住吉町（関内）に事務所移転
2008.5	理事長松本和子退任、中野しずよ就任
2008.7	区役所窓口サービス向上支援事業開始（～2010.3）
2009.4	よこはま地域づくり大学校事業開始
2009.5	定額給付金の代理受領および横浜市への寄附手続き開始（～2009.11）
2009.7	横浜市市民活動支援センター運営開始
2012.7	認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）として国税庁より認定
2013.4	横浜市中区太田町（馬車道）に事務所移転
2014.4	横浜市市民活動支援センター運営（2 期目）
2014.4	にしく市民活動支援センター運営開始
2017.4	横浜市認定特定非営利活動法人（横浜市認定 NPO 法人）認定
2019.4	にしく市民活動支援センター運営（2 期目）

(4) 2018 年度の役員・事務局スタッフ

● 役員（理事・監事）

理事長	中野 しずよ
副理事長	竹谷 康生、松本 道雄
理事	井上 義臣、加世田 恵美子、河原 勇輝、齋藤 保、田尻 慎太郎 山野上 啓子、吉原 明香
監事	西尾 敦史、大塚 宏

● 事務局スタッフ

常勤・非常勤 アルバイト	吉原 明香（事務局長）
	横浜市市民活動支援センター配属 関尾 潤、薄井 智洋、嶋田 拓郎(2018 年 4 月～)、小川 彩子、 染谷 日向子 (2018 年 10 月～)、大河原 正人、奥井 利幸、神田 廣志、 田中 田人、撞井 静雄、原田 姫子、村田 育男、落合 貴美恵、 徳増 友紀（～2019 年 2 月）、五十嵐 優（2019 年 1 月～）、鈴木 茂 （2019 年 3 月～）、内田 智美
	にしく市民活動支援センター配属 加世田 恵美子、山田 素子、藤崎 さゆり、宮澤 勝子（～2019 年 3 月）、 今村 利恵子、北川 洋
	法人事務所配属 石川 亜紀子
ボランティア スタッフ	勝田 泰輔、山戸 一弥、平尾 隆郎

2018 年度 横浜市市民活動支援センター事業報告書

I. 2018 年度 事業のねらいと方向性についての総括

～ 中間支援ネットワークで、コーディネート力充実、多様な主体による課題解決推進へ基盤を固めました ～

これまでこの横浜では、市民の主体的な力で社会の様々な課題解決に取り組んできましたが、その果実として、中間支援機能をもつ民間組織も育ってきています。

横浜市市民活動支援センターは、これまでもこれらの組織と連携して事業等を行ってきましたが、その積み上げを活かし、

具体的なしくみとして、中間支援組織連携による相談・コーディネート事業を本格的に開始しました。

大都市横浜ならではのスケール感や豊かな市民の力をもって、市域・区域の中間支援組織とさらにその組織がつながる組織・個人のネットワークを活かし、様々な主体が連携した課題解決の事例とノウハウが蓄積されることを目指して相互に協力し合うような関係構築を推し進めることにより、一定の成果につながりました。

また職員体制を充実させ、市域・区域の中間支援組織等の拠点にて相談対応を行うことで、生きたネットワークを拡げ、コーディネートの経験値を高め、人材の組織基盤強化を図ることができました。

管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま

Ⅱ．個別の事業計画

1．相談事業全体の成果と課題、来年度に向けた展望

2018 年度は、市域・区域の中間支援的な機能（相談、コーディネート、情報提供等）を発揮している団体との協働による相談事業（以下、連携相談）が、本格的に運用をスタートしました（昨年度、2 団体との連携による相談事業が始まり、年度初めには 10 団体、年度末時点で 16 団体となりました）。この連携相談では、相談者が具体的に現場を見たり、実践者からの話を聞いたりすることで、相談者の取組みの具体化につながったり、プロジェクトが生まれたケースもあり、コーディネート先が広がることによって、支援センター内だけでの相談対応から、さらに一步、推し進めることができました。

N P O との連携・協働、協業などに関する情報を求めて相談される企業からの相談も増加傾向にあり、また、地域・社会貢献を模索している社会福祉法人も増えています。それらに積極的な周知を図っていくとともに、支援センター職員によるコーディネートの役割が益々重要となってきたと考えます。

一方、連携相談を通して、アドバイザーへのコーディネートに取り組んだ結果、日頃の相談においてもコーディネートを強く意識するようになりました。コーディネートを考える上では、相談者の思いや真のニーズ、活動の実態をしっかりと聞ききることが必要となり、結果として、これまで以上に丁寧な相談対応を心がけて取り組みました。今後は、O J T や相談対応の仕組み化を図ることで、相談対応のベースを定着させ、センターとしての相談対応力の底上げを図っていく必要があります。

N P O 法人の立ち上げや運営支援に関しては、市民局市民活動支援課（N P O 認証班）とともに、「N P O 法人設立認証申請の手引き」の改訂に取り組みました。制度的な知識を伝えやすく構成するとともに、N P O 法人の運営をよりよく進めるための情報も追加しました。その新たな内容の一つが組織のガバナンスです。組織のガバナンスの在り方については、課題として抱えている法人が少なくないという実態が、日頃の相談や各種講座を通じて見えてきましたので、とくに新たに法人を立ち上げるという団体には、早い段階で伝えていく必要があります。

名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施内容・件数	成果と課題
1) 日常的な相談対応	- こうありたいという思いに寄り添いながら、団体運営の悩み等、日常の相談に窓口・電話・メール等で対応しました。 - 予約制相談や専門相談につなぎ、より深く相談対応することで、相談の入口機能としての意識を持って、相談に応じました。	主に市民活動・地域活動に取り組む団体・個人の方（これから活動を始めようとする方も含む）	- 丁寧に相談者へのヒアリングを行い、必要に応じて他の予約制相談・専門相談につなげました。 - ホームページに問合せフォームを作成し、より相談しやすくなるようにしました。 - 初期の相談対応におけるヒアリング内容を、記録化し、職員間で共有し、事前に対応方法を検討したうえで、継続的な相談に応じるようにしました。 - N P O 法人共通の理念、協働についての基礎的知識、N P O 法人になった際の諸手続き、年間法人事務や総会事務等に関する少数制の勉強会・相談会を隔月開催しました。	計 907 件/年 月平均 75.6 件 （昨年度：65.5 件/月、目標件数：83 件/月） N P O 法人設立前後の団体向け勉強会・相談会 （年 5 回） ＜参加者＞ 延 57 名 ＜開催日＞ 2018 年 5 月 10 日（木） 7 月 26 日（木） 10 月 4 日（木） 12 月 6 日（木） 2019 年 3 月 28 日（木）	成果 初期ヒアリングを丁寧に行い、得られた情報をもとに対応を検討したうえで相談に応じることで、相談者の方がその後の活動をどのように進めていくのかを考えるうえでのサポートをすることができました。 課題 継続的に団体の活動をフォローしていくために、相談記録のデータ管理化を進め、団体ごとに整理するなどの工夫が必要です。

2) 中間支援組織との連携による予約制相談		横浜市内の主に民間拠点を運営する中間支援組織等と連携し、協働して相談に応じました。幅広いネットワークや各分野の専門性に長けた中間支援組織が団体の悩みに寄り添い、様々な角度からアドバイスを行うことで、組織運営・事業運営について総合的に考えることができるようサポートしました。		市域の中間支援組織に加え、各区で幅広いネットワークを持ち、中間支援的な機能を発揮している NPO 法人リーダーをメインに、当センター職員もが同席し、相談対応に応じました。	19 件 ＜内訳＞ ・子どもの活動に関する相談 6 件 ・空き家に関する相談 3 件 ・サービス B に関する相談 3 件 ・地域の活動に関する相談 2 件 ・カフェの立ち上げ・運営に関する相談 4 件 ・その他 1 件	成果 カフェの立ち上げ・運営や、サービス B など、現場を見たり実践の話を聞くことができ、団体として具体的に活動を進めるための方法やヒントを得ることができました。また、センター職員が同席し、コーディネート役を務めることで、プロジェクトが生まれた事例もありました。 課題 とくに、団体立ち上げ期のタイミングでの相談においては、アドバイザーから様々なアドバイスをもらった後のアフターフォローが必要となります。また、相談事業の仕組みとして、プレイングアドバイザーの方が、具体的にどのような相談に応じているのか、どのような流れでアドバイザーにつながるのかなど、制度が分かりづらい点は改善が必要です。
各種専門相談	3) 管理者による予約制相談	団体運営や企業 C S R 等の問題・課題については、マネジメント経験が必要なことから、毎月、責任者による相談日を設定（月 2 日＋随時調整）し、複雑な状況の相談について対応しました。	市民活動団体、地域活動団体、企業、大学、行政等	初期相談（日常の相談）の段階で、活動・運営の状況やお悩みに関する情報を把握してから、予約制相談につなげるよう、相談のステップを意識して取り組みました。	10 件/月	成果 企業からの相談も日常的になっており、月に数件程対応しました。ほとんどが本業を通して、継続的に社会全体が良くなることにつながり、かつマネタイズに結びついていくという考え方が徐々に広がってきており、NPO 等との協働の可能性を強く感じることができました。 課題 一方で、現在は体制的な問題もあり、その後の取り組みに伴走的に関わるところまでは難しいという課題があります。
	4) 税理士による無料相談	税理士による無料相談会を、毎月定例で桜木町センターを会場にして実施しました。	会計・税務に関するお悩みをお持ちの NPO 法人、市民活動団体	- 事前に団体情報・相談内容を十分に把握し、担当税理士と共有して臨むことで、よりスムーズに相談対応できるようにしました。 - 会計・税務の悩みをきっかけにした相談の入口機能を果たしていることから、状況に応じて、他の有料相談や予約制相談につなげられるよう取り組みました。	25 件	成果 センター職員が同席し、相談者と担当税理士の仲介をすることで、その後の団体での進め方や対応方法など整理するのをサポートすることができました。 課題 顧問契約している税理士が、NPO 法人の事情に

						詳しくない場合に、本相談会では対応できないという課題があります。 また、相談時間の枠におさまらないケースが増えています。運営の点から、当日に十分なヒアリングを行ったうえで相談内容に応じるためには、時間枠の見直しなど、改善が必要です。
	５）アドバイザー派遣事業 （派遣対象：税理士、社会保険労務士、建築士、中小企業診断士等）【新規】	１回の相談時間：２時間程度。 - アドバイザー料：5,000 円（初回） - アドバイザーが団体の事務所に直接出向き、約 2 時間かけて丁寧なアドバイスを行なうため、団体の様々な悩みや困りごとに対応しました。 - 派遣対象：税理士、社会保険労務士、建築士（新規）、中小企業診断士（新規）	会計・税務、労務等、団体の運営や活動で様々な疑問や悩みをお持ちの NPO 法人、市民活動団体	新たに建築士、中小企業診断士が加わったことから、あらためて制度の周知に取り組みました。有料相談として、他の相談事業と併せて周知を図りました。	11 件 （昨年度：5 件） ＜内訳＞ 税理士 6 件 社労士 4 件 建築士 1 件	成果 税務や労務をはじめとする専門的な個別アドバイスを受けるだけでなく、組織の体制や事業の立て方自体を見直すきっかけになったと報告で答える団体が多くなりました。 課題 2018 年度は 11 件中 1 件（建築士）を除き 10 件は税理士と、社会保険労務士への相談でした。税理士・社会保険労務士への相談を引き続き募集しつつ、建築士や中小企業診断士のアドバイザー派遣を PR する必要があります。
	６）資金調達おうえんチームによる相談	日本政策金融公庫・横浜市信用保証協会・横浜市市民活動支援センター・市民局の 4 者のチームで、融資に関するお悩みに対応しました。	資金調達にお悩みの団体	引き続き、月 1 回の相談日を設定し、さまざまな機会を捉え、多様な方法で周知を図りました。	3 件 （月 1 回。1 日 4 枠の相談枠を設定）	成果 支援センターが初期の聞き取りを行い、相談内容や団体の現状をある程度把握してから、必要に応じて、相談会につなぎました。その工夫により団体のニーズと相談会のミスマッチが起これにくくなりました。 課題 相談会自体の申し込みは減少傾向にあります。相談会のあり方自体を見直し、開催頻度の見直しなど検討する必要があります。

２．情報の提供・発信事業全体の成果と課題、来年度に向けた展望

市民活動や地域活動に関わる情報や企業 CSR に関わる情報、これらを後押しする大学・行政からの情報を市民へわかりやすい形で発信する「市民活動情報メディア」としての意識を持ち、情報紙、インターネット・SNS、施設内を活用し、情報発信をしていきました。また、横浜の中間支援力を活かし、活動団体のノウハウを活動に応用しやすいかたちで情報提供できるよう、情報の編集に力を入れ、さらに活動潜在層に対しても関心を持つ機会を広げるため、積極的に外部メディアと連携し、告知方法を工夫しました。来年度は当センターホームページの更新に力を入れ、また募集中のイベントの申し込みがフォーム入力で完了するなど、スマートフォンでの情報アクセスがよりしやすくなるよう工夫します。

区分	名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施内容・	成果と課題
紙媒体による情報発信	1) 情報紙「animato」	今後重要と思われる課題や、市民活動団体にとっての関心ごとを視野にいれてテーマを検討し、年3回発行しました。 市民活動団体がより幅広い視野で活動できる手助けとなるよう、また、まだ活動していない方々には、市民活動や地域に根付いた活動の意義を感じ取っていただけるよう、工夫しました。	市民活動団体、活動潜在層の一般市民	24号「プロジェクトダイナミズム」（8月発行）では、ページ数を増やし（12ページ→16ページ）文章と写真のみの構成ではなく、理解を深めるための図やイラストを入れるなど、読者に伝わりやすい紙面を目指しました。	（1）24号（8月発行）「プロジェクトダイナミズム」 （2）25号（12月発行）「多世代循環を考える」 （3）26号（3月発行）「ひとりの人として向き合うことから始めよう！」 （目標：年3回発行）	成果 読者が最後まで読み切れる構成を考え、ダイナミックな構成で24～26号を制作することができました。 課題 スマートフォン等、気軽にデジタルで情報を得る人が増えており、より多くの方に animato を届けるため、テーマに関連する団体へ告知協力（ホームページやメールマガジン掲載等）をお願いするなど、情報アクセスの工夫が必要です。
インターネットによる情報発信	2) ホームページ	市民活動に関する情報のハブ機能を意識して、中間支援組織の紹介やリンクをトップページに掲載しました。イベント等の周知は、Facebook と連動して発信し、講座への申込機能を実装することでスムーズに参加できる体制を整えました。 初めてアクセスしていただいた方には、市民活動に興味を持っていただけるように、活動者には、「相談等をしてみよう」と思っただけけるように、HP を運営しました。	市民活動団体、市内 NPO 法人、行政機関	ホームページは相談事業を入口とし、ニーズの解決までネットワークでつなげていくセンターのイメージを持ってもらえるよう、より見やすくなるようデザインを見直しました。また当センター主催のイベントや講座への申込機能を付け加えました。	1 日平均アクセス数：750 ページビュー	成果 ホームページデザインをリニューアルしたことで、問い合わせフォームへの連絡も増え、アクセス数も増加しました。 課題 より多くの方にアクセスするために、新着情報をアップ後に SNS と連動して情報発信する仕組みを確立する必要があります。

	3)チャンネル animato	つながりのまちづくりフォーラムなどの準備プロセスも含めた実際の様子などを動画で撮影し、収録した内容を編集して配信しました。配信は当センターホームページと Facebook で行いました。	市民活動団体、NPO 法人、活動者に向けて配信。	市民活動実践者のみならず企業も含めたさまざまな主体が地域課題解決に取り組んでいる様子をリアルに伝えました。	つながりのまちづくりフォーラムの準備段階から本番まで 3 回に分けて配信しました。 (目標：年 3 回以上発信)	成果 ネットワーク構築事業の「つながりのまちづくりフォーラム」の企画会の様子を動画編集し、SNSと連動して公開しました。 課題 SNS で公開後、動画をシェアしていただいたりリアクションも多くありましたが、編集に時間がかかり、当初公開予定日より遅れてしまうこともありました。
	4) メールマガジン animato pico	市内で実施される市民活動のイベントや助成金情報を、より多くの方にお伝えするために、配信希望の方、当センタースタッフと名刺交換させていただいた方へ月に一度メールマガジンを配信しました。		配信されたメールマガジンの情報は、当センターホームページ、Facebook ページに掲載し、関係機関や関係者の方にシェアしていただくことにより、多くの方に届けることができました。	月に 1 度+臨時号 1 回を加え年 13 回発行しました。 約 2500 人に対して配信しました。 (目標：年 12 回配信)	成果 当センターのイベント参加者のアンケートを見ると、メールマガジンを見て参加した方もありました。 課題 当センターと法人の Facebook への「いいね」の数が 1,700 を超える中、メールマガジンは、掲載依頼のあった団体への広報協力としての役割が大きくなっています。しかし、実際には SNS でのシェアの方がより広がる可能性は大きく、見直しの時期にきています。
	5) Facebook	当センターイベント情報や、開催後のレポートを写真と共に掲載しました。ホームページやメールマガジンと連動することで、多くの方に情報を届けられるようにしました。		事業担当者によるレポートとともに、写真や動画を積極的に活用していききました。「チャンネル animato」と連動し、気軽に市民活動の話を聞いていただき、興味を持っていただく機会を増やしました。	月平均 480 ページビュー (目標月 400 ページビュー)	成果 センター事業「イベントページ」を作成することで、フェイスブックからの参加申込者が増加しました。 課題 発信内容をイベント情報のみならず、各事業について小出しで紹介する記事や、親しみをもってもらう仕掛けを考える必要があります。
施設内の情報発信	6) Zoomy IN!!の運営 (5 階入り口の掲示板)	施設利用者が一番目に入りやすい 5 階フロアの入り口に animato 最新号や最新の口座のチラシを配置しました。	施設利用者	最新の情報がすぐに目に入るよう、animato やチラシをこまめに入れ替えました。 また、市民活動支援センターの工事や相談予約受付方法の変更などの重要なお知らせが目に入るよう掲示しました。	月 1～2 回更新しました。	成果 施設利用に関する案内やイベント情報、animato 最新号を整理して発信することで、利用者にとって必要な情報を分かりやすく届けました。 課題 重要なお知らせが多くなった時期には、掲示が多くなりす

						ぎ見づらくなってしまいました。 イベントの告知をより目立たせるため、ポップの設置などの工夫が必要です。
	7) 市民活動情報コーナーの運営 (4 階)	市民活動・ボランティアに関する雑誌を配架します。また、市民活動の入口となる書籍なども購入し、配架しました。 18 区や他地域の市民活動支援センターの情報誌などを配架しました。		利用者が市民活動に関する情報を集め、来館時に多くの情報を得られるように、活用しやすいような配架方法や掲示内容についてさらに工夫を行いました。	毎月購読している雑誌を配架するほか、年 1～2 回購読内容を見直しました。	成果 本の入れ替えや最新刊の平置きなどを行ったことで、これまで以上に目立つコーナーになり、活用しやすくなりました。 課題 本や雑誌ではなく、デジタルで情報を得る人が増える中、紙媒体の情報は手に取られにくい傾向にあります。

3. 市民活動マネジメント支援事業の成果と課題、来年度の展望

昨年度に取り組んだ団体の基盤強化については、従来の内容を引き継ぎつつより実践性を高めるとともに、団体において課題とされていた「事業の運営・立ち上げ」に対しての新たなプログラムを企画し、より全体的・体系的なマネジメント支援を実施することができました。

講座全体を通じては、事例団体による取組みを深く掘り下げ共有することを心がけ、より実践的な考え方や手法を学ぶ場にしました。他の団体が日頃どのように取り組んでいるのか、外からは見えない部分を具体的に知ることによって、自団体の考え方・やり方に対して新たな気づきやヒントが得られるなど、成果が見られました。とくに、「組織のガバナンス」に関しては、相談事業を通じて団体における課題であることが見えてきたことから、「NPO 法人スキルアップジム」や「NPO 法人トップマネジメントセミナー」で重点的に取り上げました。結果、参加団体においては自組織の在り方を見直す良いきっかけとなりました。

また、事業の運営や立ち上げに関しては、“15 年以上活動している法人の取組みから学ぶ講座”に加えて、これからの形の一つとして想定される“NPO と企業との協業”をテーマにした講座も実施しました。様々な組織・事業のパターンや具体的な手法を学び、自団体の組織および事業の運営について考えるための場が必要であるとともに、そうした学びをきっかけに具体的に取り組むうえでの継続的なサポートも必要とされています。

名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施内容	成果と課題
□ 管理・事務／組織マネジメントコース NPO 法人スキルアップジム	組織マネジメントの基礎知識と「法人事務の年間スケジュール」「総会の開催手順」「所轄庁への届出」など、NPO 法人として必要な諸手続きや、総会運営など、事務全般について知識を学ぶ機会をつくりました。	認証後の NPO 法人 （設立申請中や、新規事務局スタッフも可）	NPO 法人事務（総会、各種届出等）の年間スケジュールに合わせて、必要な事務に関する知識を身に着ける機会をつくりました。 団体の目的達成に向けて、より良い組織をつくるために必要な知識（場づくりやコミュニケーション等）を学ぶ場をつくりました。	日時：2019 年 1 月 30 日（水） 13:30～17:00 会場：横浜市市民活動支援センターワークショップ広場 受講者数：22 名 アンケート平均：89.1 点	成果 NPO 法人における各種届出・手続きなど具体的な事務を知るとともに、NPO 法人の組織の在り方について理解することで、あらためて自身の法人運営に目を向けるきっかけをつくることができました。 課題 事務を担う人員確保や、ガバナンスの視点からみた組織づくりが、多くの法人におけるこれからの課題になると思われます。
□ 管理・事務コース 超実践！よこはま NPO 会計塾【新規】	会計に関する基礎的な知識を身に着けるとともに、NPO 法人の日々の会計業務に関するより実践的な知識を学びました。 講座当日には、個別で会計・税務に関する個別のお悩みを相談する時間をつくりました。	法人の事務局長・会計担当者等	NPO 法人の会計に関する一般的な知識を伝えるだけでなく、会計ソフトの導入や税理士との顧問契約など、より適切に法人会計を行っていくために必要な情報を提供しました。	日時：6 月 21 日～7 月 12 日 （毎週水曜 13:30～17:00） 受講者数：延 122 人（1 回平均 30.5 名） アンケート平均点 第 1 回：91.4 点 第 2 回：92.9 点 第 3 回：90.2 点 第 4 回：96.9 点	成果 会計業務の基礎となる簿記の知識に加え（第 1～3 回）、日々の会計業務について具体的な方法を知ること（第 4 回）、より実践的な知識・方法を学ぶことができました。 課題 支払発生時の金銭処理の流れなど、より日常的な内容を組み込むことで、団体での会計業務がよりスムーズにできるようサポートしていきます。

□ 管理・事務コース よこはま NPO 労務塾	労務の考え方や全体像を知り、具体的な管理の仕方や必要な手続きを学んでいくことができました。 講座当日には、労務に関するお悩みについて、短時間の個別相談ができました。	職員を雇用し（または予定があり）、これから労務に取り組む法人の事務局長・労務担当者	いきいきと働ける職場づくりをめざし、労務管理の基礎を学びつつ、労務を身近に感じてもらえるような講座となるよう、プログラムを工夫しました。	日時：2019 年 2 月 20 日（水） 10:00～16:00 会場：日本丸メモリアルパーク 訓練センター会議室 受講者数： 午前 14 名 午後 17 名 アンケート平均点： 午前の部 91.0 点 午後の部 88.6 点（講義編のみ）	成果 NPO 法人の労務に経験豊富な社労士の講義と、センター職員による、ロールプレイング形式での具体的な事例紹介により、受講者の人事労務に関する疑問点を解消することができました。 課題 現在の疑問点は解消できても、社会保険労務士との顧問契約までは難しい団体は、問題が起こるたびに迷うことが多いと思われます。当センターに気軽に相談いただくようお願いし、ある程度対応しますが、専門的なことはアドバイザー派遣となりお金と時間がかかります。
□ 事業マネジメントコース NPO 法人ブラッシュアップセミナー 【新規】	多様な主体がともに課題解決に向けて取り組む社会、NPO と企業の協業に向けては、自団体のアピールポイントを、相手方との相対的な関係の中で、いかに考え、伝えるか、また、契約や信頼関係に基づく 関係づくり をいかに進めるかがポイントとなるため、企業と NPO の関係の中から、自団体のアピールポイントを探っていくための考え方や、それを伝えるためのポイント、協働契約の在り方などについて学ぶ機会とするべく企画しました。	NPO 法人の理事、事務局長、事業担当者	テーマ別セッション ■セッション 1 「企業から見た NPO の価値や魅力」 企業が考えている NPO の価値や期待していること、企業と NPO の協業におけるポイント等についてお話いただきました。 ■セッション 2 「NPO 法人から企業へのアプローチの実践」 多くの企業と接点を持つ中での、具体的な関係づくりについてお話いただきました。 ■セッション 3 「協業における契約について」 NPO と企業が協業していくうえで重要となる契約の内容について、具体的な事例を通してお話いただきました。	日時：2019 年 3 月 4 日（月） 13:15-17:30 会場：WeWork みなとみらい 受講者数：17 名 アンケート平均点：82.8 点	成果 企業、NPO、土業、それぞれの視点から「協業」の事例を紹介いただき、関係づくりから契約までのフローを学ぶことができました。 課題 交渉時、契約時等、団体によって協業に進む際のポイントが異なるため、協業が始まった際の相談、伴走支援ができる仕組みを構築する必要があります。
□ トップマネジメントコース NPO 法人トップマネジメントセミナー【新規】	NPO を運営しているトップマネジメント層を対象に、法人を管理する立場に必要な、全体的なマネジメントに関する知識	法人の理事・事務局長	法人経営に関わる立場の方たちによる学び合いの場をつくりました。	NPO 法人トップマネジメントセミナー 「NPO 法人を運営するために知っておきたい 3 つのこと」	成果 健全な法人運営に向けて、財務諸表の読み方を知り、自団体の財政状況を把握するためのポイントを学ぶことができました。

	やスキルを身につけることを目指してセミナーを企画しました。（既にキャリアのある法人の、次世代育成のためのセミナーとしても実施）			日時：2019年2月14日（木） 13:15～17:30 受講者数：12名 アンケート平均：90.0点	た。 また、具体例を交えながら、団体として継続的・自立的に組織や事業を運営していくために必要なことについて考えることができました。 課題 多くの学びがあり、課題が認識できた中で、今後はいかにして自団体の経営改善につなげていくのが課題となります。
NPO 法人入門講座 （区域開催）	NPO 法人の設立を検討している方に向けて、NPO 法人に関する基礎的な知識を学ぶことができる講座を実施しました（出張講座として、区版センターとの協力のもとで開催しました。）	NPO 法人の設立を検討している方・NPO 法人に興味のある方	会場利用や周知等、区版センターとの協力のもとで進めることで、NPO 法人に関する情報をより広め、法人に対するニーズの掘り起こしにつなげました。	中区開催 2019年2月13日（水） 受講者数：35名	成果 広報について、市民活動支援センターで中区以外の京浜東北線沿線や地下鉄沿線の区にも周知したことで、多くの参加者がありました。 事例発表（認定 NPO 法人地球学校による）により、実際の運営のイメージが伝わったという感想がありました 課題 あくまで入門講座なのですが、様々なレベル感の方が来られます。区ではフォローが難しい状況もあります。

4. ネットワーク構築事業の成果と課題、来年度の展望

市民活動団体、地域活動団体、自治会町内会、大学研究者、企業、行政などが各エリアやテーマで多様性を認め合い、学び合い、つながり合えるよう、多様な場づくりを行いました。

顔と顔が見え、少人数のゆるやかなつながりづくりの場として企画した「Face to Face」では、これまでつながりのなかった参加者層が増えました。「つながりのまちづくりフォーラム」は、複数の団体でプロジェクト的に取り組んでいる事例にスポットをあてて実施したところ大きな反響をいただきました。

横浜市社会福祉協議会・横浜市ボランティアセンターとの連携では、勉強会を通して災害ボランティア支援センター、行政、NPO 等の中間支援組織による三者連携を取っていくことが必要不可欠であることを、改めて確認することができました。

名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施内容	成果と課題
1) ダイヤモンドプロジェクト -Face to Face	多様な主体が学び合い・磨き合うダイヤモンドプロジェクトでは、横浜の未来づくりを市民が主体となって協働で進めるための「見えるつながりづくりの場」をつくることを目的とし、テーマ別に Face to Face ※を開催しました。 ※「市民が市民を見捨てない社会」に向けて、「何をもって自分を起動させるのか」を考え学び合う機会。少人数制で、終了後の交流の時間をたっぷり取ることで、真の出会いとなることを目指しています。	市民活動団体、NPO 法人、地域活動団体、自治会町内会、大学研究者、企業、行政職員	トピックを設定して開催し、参加団体の応援につながるようなテーマを設け、団体や企業・大学・行政など多様な主体に参加を呼びかけました。	【第 1 回】 「コミュニティオーガナイズ」 日時：2018 年 12 月 26 日（水） 18：30～20：45 （終了後交流会） 参加者数：18 名 会場：WeWork みなとみらい 【第 2 回】 ロビイング入門「人は人で動く」 講師：関口 宏聡 さん 日時：2019 年 2 月 7 日（木） 18：30～20：30 （終了後交流会） 参加者数：14 名 会場：WeWork みなとみらい 【第 3 回】 「クラウドファンディングを活用したキャンペーンのつくり方」 日時：2019 年 3 月 19 日（火） 18：30～20：45 （終了後交流会） 参加者数：18 名 会場：WeWork みなとみらい	成果 連続講座ではなく、少人数制のテーマごとに参加できるようにしたことにより、顔と顔の見える関係づくりを目指した場づくりを行うことが出来ました。 講座実施後、つながった方同士で実際にイベントを実施し、具体的なアクションにつなげることができました。 課題 子育て中のお母さん等、「参加したいのだが、夜は参加できない」というお声をいただき、講座の実施時間を一部再検討する必要があります。

2) よこはま市民パブリック★スクールの実施	横浜における社会・地域の現状・課題をもとにテーマを設定し、多様な主体の参加・参画による議論や情報交換等を通じて、課題解決の取組みにつなげたり、ネットワークを育むことをねらいとしました。	民間の中間支援系活動団体、大学研究者、企業、行政職員、社会福祉協議会職員	テーマ①市民活動支援編 民間の中間支援組織による市民活動支援の現状や課題、今後の方向性について テーマ②災害支援における連携体制のあり方編 横浜市ボランティアセンターと連携し、横浜での大規模災害発生時における、災害支援連携体制のあり方について、勉強会を開催し議論しました。 ※詳細は、4) 横浜市社会福祉協議会横浜市ボランティアセンターとの連携に記載しています。	テーマ1：市民活動支援編 中間支援連携相談のブレイングアドバイザーとともに、エンパワ会議（3月13日～3月25日まで、計5日間実施）の中で、左記テーマについて議論・検討	成果 中間支援連携相談の取組みを踏まえながら、民間による市民活動支援機能としての相談・コーディネートにおける課題や今後の在り方について議論することができました。また、中間支援組織同士による議論の場やネットワークの重要性を共有することができました。 課題 民間の中間支援組織が、個々に相談・コーディネートの機能を担っていることが分かりました。一方で、本来事業を継続しながら相談・コーディネート機能を担うにあたっては、そのための体制づくりや運営資金の確保が課題となっています。
3) つながりのまちづくりフォーラム 2018	今回のフォーラムでは、地域の居場所や、アートを活かす取り組み、当事者の語り合いから生まれた取り組みなど、地域や社会の課題解決を、複数の団体でプロジェクト的に取り組んでいる事例を学び合いました。	市民活動団体、地域活動団体、自治会町内会、大学研究者、企業、行政職員	開催にあたっては、中間支援機能を持つ登壇者と企画・実施しました。 ○ NPO 法人 宮ノマエストロ 理事長 高橋裕子さん ○ NPO 法人 アーモンドコミュニティネットワーク 理事長 水谷裕子さん ○ NPO 法人 親がめ 理事 塚原泉さん、gift メンバーの皆さん ○ 認定 NPO 法人 ST スポット横浜 事務局長 田中真実さん	つながりのまちづくりフォーラム ～つながりの連鎖がまちを変える～ 日時：2018年11月1日（水） 17:00～20:45 参加者数：193名 アンケート平均点：90.1	成果 自分が関わっているテーマ、関われそうな事例を学べてよかったというアンケート結果を多数いただきました。また終了後の交流会（名刺交換会）まで残られる方が多く、つながりの場を作ることができました。 課題 「会場からの質問を受けてほしい」といご要望がありましたので、タイムスケジュールを工夫して来場者の皆様との対話ができるようにする必要があります。
4) 横浜市社会福祉協議会 横浜市ボランティアセンターとの連携	関東圏で震災が起こった際の市民活動団体の連携や当センターの役割などについて話し合い、信頼関係を積み上げ、相互補完関係をさらに進めました。また災害ボランティアネットワーク会議主催のセミナーに複数回参加しました。	横浜市社会福祉協議会横浜市ボランティアセンター、横浜市市民局市民活動支援課	横浜市ボランティアセンターと連携し、発災時の、役割分担等について、お互いのもっている情報や経験などをもとに、見直し・確認しました。特に発災後の横浜市災害ボランティア支援センターにおける連携の在り方についても勉強会を通して議論しました。	○災害ボランティアネットワーク定例会への参加 ○横浜市ボランティアセンターとの定例会 ○横浜市社会福祉協議会との合同勉強会とヒアリングを下記の内容で実施。 <u>第1回：2018年12月17日（月）</u> 9：15～10：30 <u>第2回：2019年1月30日（水）</u> 10：00～11：30 <u>第3回：2019年4月17日（水）</u> 16：00～17：00 <u>ヒアリング：2019年1月23日（水）</u> 17：00～18：00	成果 勉強会を3回と岡山 NPO センターの石原達也氏へのヒアリングを実施しました。横浜で大規模災害が発生した場合、西日本豪雨以上に大規模な災害支援ニーズが想定される他、相当数のボランティアも生まれることが予想され、災害ボランティア支援センター、行政、NPO 等の中間支援組織による三者連携を取っていくことが必要不可欠であることが、改めて確認することができました。 課題 災害時の横浜における三者連携のあり方を具体化していくことが求められます。具体的には、横浜市災害ボランティア支援センターや各区災害ボランティアセンターにおける、民間組織との連携体制のあり方を、今後もより議論していく必要があります。

5. 各区の市民活動支援センター支援事業の成果と課題、来年度の展望

各区の市民活動支援センター（以下、区版センターという。）支援においては、コーディネート機能の強化を重点課題として、ネットワーク会議や研修にとりくみました。

昨年度のセンターへのヒアリング調査から、組織としてのスキルやノウハウの蓄積が課題であることが見えてきた中で、ネットワーク会議では「コーディネート機能の強化」を明確なねらいとして打ち出し年間通じて取り組み、初任者のセンター職員に対する研修でも、同テーマを重点的に取り上げ、各センターへの定着を目指して取り組みました。そうした取り組みの成果や、コーディネートの実践において実際に課題として抱えていることを明らかにしながら、今後も継続的に取り組んでいく必要があります。

名称	内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施内容	成果と課題
1) 互いに学び合うネットワーク会議の実施	18区全ての支援センター（以下、区版センター）と地域振興課職員を対象としたネットワーク会議を実施しました。 区版センターの運営や業務、事業等について、全体で情報共有・情報交換等を行うことで、より良い区版センターを目指しました。	・ 区版センター職員（特に2～3年目の職員を対象とします。） ・ 地域振興課センター担当職員 ※第1回は、地域振興課担当係長・センター担当職員を対象としました。	・ 「コーディネート機能の強化」を重点課題として取り組みました。 ・ 組織マネジメントの観点から、区版センターの運営の在り方について検討しました。 ・ 会議での内容を、各センターで共有し、日頃の業務や事業に活かしていけるよう、取り組みました。 ・ 各回で共有した内容をもとにしながら、「センター運営 Q&A 集」を更新しました。	第1回：2018年5月31日（木） 「コーディネーター機能の発揮に向けた関わりについて」ほか 参加者数：15区26名 ※地域振興課係長・担当職員対象 第2回：2018年8月28日（木） 「コーディネーターに必要な力とその磨き方」 ゲスト講師：水谷裕子さん（NPO法人アーモンドコミュニティネットワーク） 参加者数：16区17名 第3回：2018年11月16日（金） 「コーディネートの思考プロセスを鍛えよう」 参加者数：13区20名 第4回：2019年3月26日（火） 「エンパワメントにつながる相談コーディネート～その考え方と実践～」 参加者数：14区18名	成果 「コーディネート機能の向上」を大目標として設定。支援センター職員がコーディネーターを務めるうえで必要なスキル・考え方を体系化して示し、年間通じて取り組むことで、コーディネートに必要なことを全体で共有することができました。 課題 コーディネート機能の定着に向けて、引き続き取り組んでいくとともに、各センター職員が顔を合わせる機会であることから、お互いの情報共有の機会にもしていきます。
2) 教育委員会と連携した新任者研修およびフォローアップ研修	各区支援センターの新任者を対象とした新任者研修、およびフォローアップ研修を教育委員会と連携して開催しました。	・ 各区支援センターの新任者	生涯学習・市民活動支援センターの機能・役割を理解するとともに、センター職員としてコーディネーターの役割を意識して活動してもらうよう、取り組みました。	新任者研修 2018年4月25日（水） 9:00～17:00 会場：花咲研修所 304 研修室 参加者数：26名 フォローアップ研修 2019年2月28日（木） 13:30～17:00 会場：花咲研修室 305 研修室 参加者数：11名	成果 ネットワーク会議同様、コーディネートに焦点を当てて支援センター職員の役割を共有することができました。 課題 とくに、初任者研修においては、覚えるべき内容が多く、研修内容も詰め込みがちになります。対象のレベルに合わせ、必要なことを身に着ける場として企画していくことが必要です。

6.共同オフィス事業

団体同士の学びあい・育ちあいが進み、自治的な運営をコーディネートしつつ、互いに刺激し合い高め合う場づくりを行いました。

内容 特徴	今年度特に取り組んだこと	実施内容	成果と課題
<u>実施すること</u> 1) 交流の促進 入居団体「ニーズ調査」を実施し、入居団体が共同オフィス事業に何を求めているのかを十分に把握します。その結果を入居団体と共有しつつ、各団体の個別の支援に活かし、共通課題については交流会等で情報共有します。また、新旧入居団体の交流を深め、互いの団体について理解を深める場として、オープンミーテを開催しました。 2) 広報の支援 共同オフィスのパンフレットについて、内容を検討し、発行します。団体情報や活動内容に関する広報を支援しました。（当センター情報紙発送の際に、広報物の同封。） 3) 日常的な相談対応・情報提供 横浜市民活動支援センターで行う講座やイベントについて、団体の活動がさらに広がるように活用いただけるようご案内しました。 4) 自主事業団体との連携および協力 自主事業団体と運営事業団体との対話の場を設け、お互いの経験・事業・ノウハウを理解し合い共感できる信頼関係を築きました。	- 夏のオープンミーテでは、共同オフィスが閉鎖する 2020 年度以降を見越して、桜木町近辺のシェアオフィス・コワーキングスペースの見学ツアーを実施しました。 3 月の活動報告 & 交流会では、WeWork で実施し、新規入居団体も含めた、活動報告を十分な時間を取って行いました。また WeWork のラウンジを利用して、ゆったりした環境で交流会を実施できました。	1) 交流の促進 - 第 1 回オープンミーテ 2018 年 4 月 25 日（水）18:00～19:30 15 人（10 団体、うち事務局 5 名） 内容：自己紹介、共同オフィスの使い方について、会議室の予約について意見交換、終了後、希望者は懇親会 - 第 2 回オープンミーテ 2018 年 7 月 27 日（金）16:00～19:20 9 名（4 団体、うち事務局 4 名） 内容：桜木町周辺のシェアオフィスの見学。終了後、希望者は懇親会 - 活動報告&交流会 2019 年 3 月 12 日（金）18:00～21:00 14 名（8 団体、うち事務局 5 名） 2) 広報支援 4 月発送：0 団体 8 月発送：1 団体 12 月発送：1 団体 3) 日常的な相談対応 相談対応や日常的な窓口での情報提供を行いました。	<u>成果</u> 日常的な声掛けや、事業の紹介を通し、普段から気軽に窓口スタッフに相談できる雰囲気が作られました。また共同オフィス終了後を見越した、新しいシェアオフィスの見学などを行うことができました。 <u>課題</u> 2019 年度をもって共同オフィスが終了するため、2018 年度に引き続き、入居団体の皆様とご一緒に新しい拠点探しのサポートを行うことが求められます。

7.施設管理事業

多くの方が訪れ活動しやすく居心地の良い場（ハード面）であると同時に、活動について相談し、発見やつながりを得られるなど、市民活動の拠点となる場（ソフト面）でもあるよう、引き続き機能の充実を図りました。日報・シフト交代時、全員会議での共有のみならず、口頭でもこまめに共有することで、課題のある利用者への対応などを連携して進めることができました。

内容 特徴	今年度特に取り組んだこと	実施内容	成果と課題
1) 職員の相談対応力のさらなる強化 2) 場の提供 - 利用者アンケートの実施、アンケートで要望のあった意見への対応、備品の整備や掲示物の見直し 「お気づき箱」と利用票へいただいたご意見への取り組み - ギャラリーコーナーの運営 1階エントランスのホワイトボードを活用し、一目でわかる情報を発信 「利用のご案内」や「センターパンフレット」の更新・改訂 - 整理整頓、清掃の徹底（全職員で施設内・備品等のクリーニングを実施） 2) 危機管理 - 災害に対応マニュアルの更新 - 感染症予防研修 - AED研修等	災害時や緊急時の対応について、マニュアルの見直しと研修の実施に力を入れた。また、一時帰宅困難者滞在施設としての機能を果たすため備品を点検し、準備した。 また接遇や相談対応について日頃疑問に思っていることなどを月2回の会議で共有し、全員で検討する時間を設けた。	年間利用者数： 4,368.6 人/月 52,423 人/年 （2017 年度実績：54,478 人、目標：55,000 人） - ワークショップ広場：公開講座やイベント等の開催で 22.1 コマ/月（目標 24 コマ/月以上利用） - ギャラリーコーナー：6 団体（目標 15 団体・機関以上利用） - 利用者目線に立った接遇：利用者アンケート接遇評価（4 段階評価）3.7（前年度 3.6） 接遇研修： 2018 年 7 月 10 日（火）14：30～15：30 - 危機管理に関する職員研修 1 災害時帰宅困難者一時滞在避難施設研修 2018 年 7 月 29 日（火）13:30～14:30 2 AED 研修 2019 年 3 月 12 日（火）15:00～17:00	成果 常勤・非常勤職員として 4 名が新たに入職しましたが、1 か月かけての窓口研修や月に 2 回の全員会議を通し、疑問や不安の残らないようじっくりと学ぶ時間を設けました。またこれを機に窓口業務のマニュアルを見直しました。結果、大きな混乱はなく、職員同士切磋琢磨しながら接遇力の向上につなげることができました。 クリーンセンタービルの設備工事による騒音・振動のため、2019 年 2 月 21・22 日および 2 月 25 日～3 月 1 日の平日日中に、4 階会議室等の利用を中止しましたが、別日への振替や 5 階への移動を提案し、可能な限り利用者への影響を最小限にとどめるよう努めました。 課題 平日夜間や日曜日の利用者数が他に比べて少ないので、活用しやすいよう整備に引き続き取り組みます。

8.自主事業団体との連携および協力

自主事業団体主催のイベント等に参加し、ニーズなどの把握に努めました。

内容 特徴	対象	今年度特に取り組んだこと	実施内容	成果と課題
1) 実施事業をより多くの方に周知するため、当センターの情報媒体(発送物同封、ホームページ、メールマガジン)から積極的に情報発信しました。 2) 運営事業団体と自主事業団体間で、事業の進捗や情報を共有するため、積極的に企画会やイベントに参加しました。	自主事業団体	企画実施前に相談・意見交換をし、積極的に企画会へ参加しました。	- 当センターの情報媒体(発送物同封、ホームページ、メールマガジン)からの情報発信 - 事業の企画会への参加 - 開催イベントへの参加	成果 アクションポート横浜主催の自主事業イベントに参加し、課題や成果、状況をつかむことができました。 また横浜市まちづくりセンター主催の「活動場所を見つける ノウハウを学べる3日間」講座のチラシ発送やメルマガへの同封、講座への参加など、講座広報への支援を行いました。 課題 活動団体が集まることで自らが課題解決に向かう力を培い、組織的な基盤をつくることにつなげるには、事業の枠組みに工夫が必要と思われます。



にしく市民活動支援センター にしとも広場

2018(平成 30)年度 事業報告書

管理運営：認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

■ 管理運営受託 5 年間の運営方針と成果

2014 年度から 2018 年度までの 5 年間、にしく市民活動支援センターを運営するにあたり、常に大事にしてきたキーワードがあります。それは、「知ってもらう」「きっかけ」「つながり」「ひろがり」です。支援センターという施設があること、そしてその機能をまずは知ってもらう。当センターに来館したり関わったことが、何かしらの活動や次のステップへと進むきっかけとなること。センターを利用する方、関係施設、団体などと当センターも積極的につながり、皆様同士のつながりを作ること。更にひろがりができること。これらを意識して運営してきた結果、利用者数は 3.4 倍、相談件数は 1.9 倍となりました。特に今年度は、当センターに足を運んでくださる方・団体が格段に増え、大変多くのきっかけやつながりを持つ場面がありました。「ここに来れば何かがある、何かが始まる」支援センターに少し近づけたと感じています。



■ 2018 年度の運営方針と成果

前年度、特に「知ってもらう」ことに注力した成果で、ある程度の周知は進みました。しかし、当センターの活用度はまだ十分ではなく、当センターも、地域資源や課題・ニーズの把握が十分ではなかったことから、今年度は、以下 3 つを重点事業とし、地域に根差し、地域に活用されるセンターを目指しました。

- 1) 地域、団体、個人に継続して対応するよう相談機能を向上させる。
 - ・ 活動団体、地域、個人からの様々な相談に対し、「関わりシート」を作成することでその足跡を残し、職員全員で共有、継続的に、状況変化にあわせて対応できる体制をつくり、実行しました。
- 2) 地域に出向き、課題やニーズの把握につとめ、生きたつながりをつくる。
 - ・ 区内の様々なボランティア団体・NPO 法人等の活動現場を訪問し、情報誌等で取材・紹介するなど発信に努めました。

- ・ 自治会町内会の会合等に参加し、地域の情報収集に努め、課題・ニーズの把握に努めました。
- ・ 特に当センターから離れた立地の自治会町内会に「出前企画」が可能なことをお知らせし、連携して出張コンサートを実施しました。

3) 関係機関等とより一層連携し、地域資源や課題を共有し、地域の活性化に努める。

- ・ 例えば、高齢者の居場所づくり、外国につながる子どもの日本語習得・学習支援などの課題に対し、関係機関や学校関係者など、必要な機関・施設・関係者と連携し対応しました。

■ 2018 年度のセンター利用実績

前年度の重点事業にもあげた「センターを知ってもらう」ための様々な取り組みが、今年度の実績にあらわれたものと考えられます。利用件数、相談件数とも、前年度を大きく上回りました。

項目	今年度累計	前年度累計	前年度比
相談件数	857 件	546 件	157.0%
センター利用件数	3,521 件	2,740 件	128.5%
センター利用人数	8,872 人	6,483 人	136.9%

－ 事業ごとの報告 －

1. 相談事業

◆ 相談機能の充実と日頃の会話から相談につなげる

相談の基本を大切にし、誠実に一人ひとりと向き合い、その方の真のニーズを引き出す力、想像する力を日々の実践や研修で高め、職員の相談力をアップすることを目指しました。その為、接遇や個人情報など、相談対応の基礎を再確認し、地域の施設や関係機関と連携を深めニーズに即した情報の提供できるよう取り組みました。

定期的に利用される方々との日常的な会話や登録時のヒアリングからも、相談につながる糸口を見つけ、適切な情報提供ができるように心がけました。

1) 相談機能の充実

- ・ 活動団体、地域、個人からの様々なご相談に対し、関わり（足跡）を残すシート「関わりシート」を作成し、継続的に状況変化に合わせ対応できるようにし、職員間で情報を共有し、適切で円滑な対応を目指しました。
- ・ 「はじめの一步じっくり相談日」「団体運営なんでも相談日」等テーマごとの相談日を設けることで、相談しやすい場づくりを行いました。

2) 相談力の向上のための取組の実施

- ・ 職員全員で行う会議において、定期的に、最近 1 か月で行った相談対応の中の、気になる事例をピックアップし情報を共有しました。また、相談内容や対応について検討し、今後に向けて、よりよい対応を考えました。
- ・ 職員研修において、相談対応における基本の 3 つのステップ（インテーク、コーディネート、クロージング）を行いました。相談場面を具体的に考えながら、対応の方法を学びました。
- ・ 活動団体、地域住民の方と共に学びながら基礎知識を高め、スキルアップを目指す職員研修を「認知症」「障害」「救急救命」をテーマとして実施しました。（知トクシリーズ）

時間・場所	テーマ・内容
2018/11/5（月） 14：00-16：00 受講者数：60 名 @西区役所 3 AB 会議室	地域で支える認知症講演会＆認知症サポーター養成講座 『認知症になっても自分らしい暮らしを続けるために』 講師：高齢者 GH 横浜ゆうゆう 施設長 井上義臣さん 主催：西区役所高齢・障害支援課、にしとも広場 認知症という病気を知ることで、ご本人、ご家族、地域の方が支え合い、共に暮らしていける方法を考える。
16：00-17：00 受講者数：12 名 @にしとも広場	『講師を交えての座談会』 講師：高齢者 GH 横浜ゆうゆう 施設長 井上義臣さん 主催：にしとも広場 「もう少し認知症について考えたい」「講師の方に相談してみたい」など、井上義臣さんを交えて、ざっくばらんに話し合う。
2018/11/29（木） 13：00-15：00 受講者数：11 名 @にしとも広場	『精神障がいについて 当事者から学ぶ』 講師：生活支援センター西 利用者 生活支援センター西 施設長 永瀬誠さん 誰もが罹る可能性がある精神疾患について、生活支援センター利用者の話を伺いながら、精神障がいについて学ぶ。
2019/1/8（火） 13：00-15：00 受講者数：9 名 @にしとも広場	『いざという時役立つ 救急救命』 講師：NPO 法人 JAEA 河波弘晃さん 基本的な心肺蘇生法や、AED（自動体外式除細動器）の操作を学び、緊急時の対応を身に付ける。



2. 情報提供・発信事業

◆様々な情報提供のツールを使い、定期的、多面的に情報を発信

昨年度に引き続き、当センター及び、当センターの持つ情報や、当センターの周知をさらに促すために3つの紙媒体を活用しました。また、日常のお知らせについて、フェイスブックとホームページを併せて活用しました。

1) 情報紙『にしとも広場』（カラー冊子・全8P）の発行

- ・「はじまりはココから」をコンセプトに、年2回（9月・3月）、5,000部／回を発行しました。
- ・各号、西区で活動する活動者に、活動をスタートした原点や思いについて取材し、地域活動・市民活動のはじまりや継続に役に立つよう、わかりやすい情報として発信しました。

<特集内容>

- ・第12号：「心惹かれて はじまりはココから」
掲載団体：NPO 法人ディアナ横濱、株式会社ブルーコンパス、NPO 法人 Umi のいえ、
着ぐるみ懐メロ音楽ユニット日ノ出サンデーズ、株式会社星羊社
- ・第13号：「心惹かれて はじまりはココから Part2」
掲載団体：NPO 法人シャーロックホームズ、Friends にし、NPO 法人レスパイト・ケアサービス萌、
吉田紅峯さん、にしシティガイドグループ



<12号>



<13号>

2) 簡易版情報紙『にしとも広場 mini』（カラーA4両面印刷）の発行

- ・表面にはトピック・お知らせ、西区街の名人達人の「来て見て聞いての日」を、裏面にはにしとも広場のイベントカレンダーや自主事業の活動などを掲載し、年4回(5月、9月、12月、3月)発行しました。
- ・情報紙『にしとも広場』と同様、自治会町内会の班回覧を活用しました。写真やイラストなどを効果的に使用し、分かりやすく、インパクトのある紙面づくりに努めました。



<7号>



<8号>



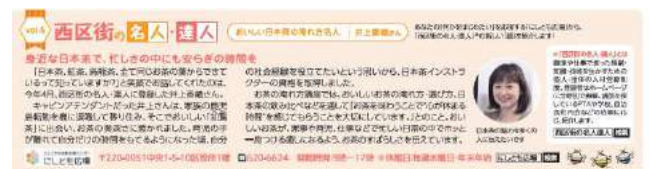
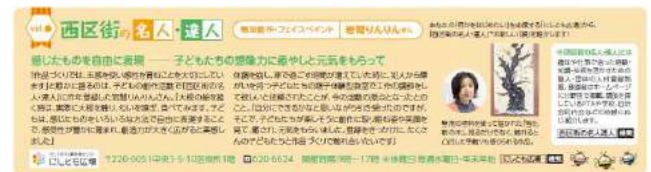
<9号>



<10号>

3) 『広報よこはま（西区版）』を活用した定期的な情報発信

- ・『広報よこはま（西区版）』コラムにて、当センター登録団体や西区街の名人・達人の紹介記事を掲載しました。
- ・コラムの掲載は、活動の周知のみならず、団体や個人の新規登録を促すきっかけとなりました。
- ・イベント特集など、広報よこはまの特集に合わせて情報を提供し、広報につなげました。



4) フェイスブックでの情報発信

- ・2017 年度にフェイスブックページを開設して以来、SNS を通じた情報収集が得意な世代も含めた幅広い層への情報発信ツールとして、よりタイムリーに、イベントの開催内容やにしとも広場のイベント情報を発信しました。少しずつですが、フォロー数も増加しました。
- ・フェイスブックページへの「いいね」数：156 人（2019/3/31）
(参考：49 人（2018/4/1 時点）)



5) ホームページでの情報発信

- ・ 地域やにしとも広場で開催されるイベント情報やボランティア募集情報など、タイムリーな情報発信を行いました。
- ・ 『にしとも広場 mini』など紙媒体では、QRコードを掲載し、ホームページの存在をアピールしたり、フェイスブックと連動させるなど、ホームページへの誘導を行いました。



6) 展示スペースの活用

- ・ 壁面ギャラリーコーナーに加え、立体作品の展示スペースとして、新たに「小箱ギャラリー」を増設しました。
- ・ 積極的に活動団体・個人に展示を呼びかけ、開催講座の見本作品や講師製作物の展示を行い、活動の周知に活用しました。
- ・ 展示作品をきっかけに、活動を始めたいと考えたり講座依頼を検討する方もありました。



3. 活動団体のマネジメント支援および、ネットワーク支援事業

◆活動がステップアップする機会や情報を提供し、より活発な活動となるよう支援

地域人材ボランティア『西区街の名人・達人』や登録団体などの活動がより活発になり、地域でも活躍の場が増えるよう支援しました。

< 1 > 地域人材ボランティア事業『西区街の名人・達人』（以下『西区街の名人・達人』）

1) 『西区街の名人・達人』の新規登録の呼びかけ

- ・ 「広報よこはま」コラムで紹介記事を掲載し、イベント等で積極的に登録の呼びかけを行いました。
- ・ 2019/3/31 時点の登録数 145 件。（2018/3/31 時点 120 件。25 件増加）

2) 『西区街の名人・達人』のコーディネート

- ・ それぞれの長所を活かしたコーディネートができるよう、職員が活動先に出向き、実際の活動の様子を知る機会を作りました。活動内容については、コーディネート時に詳しい情報を提供できるよう職員間で情報共有しました。

- ・コーディネートの相談があった際には、単なるコーディネートにとどまらず、相手のニーズを丁寧に聴き、地域や活動がより活性化するよう心掛けました。
- ・コーディネート 申込 48 件（前年比 104.3%）、成立 44 件（前年比 110.0%）

3) 『西区街の名人・達人』の活動披露の場づくり

- ・「昼どきコンサート」や「来て・見て・聞いているの日」、「うたごえ広場」などで活動を披露する場を作りました。

●昼どきコンサート

- ・子ども連れでの参加や、障害者、高齢者施設からの参加も増えました。
- ・オカリナなど、コンサート後に習いたいという問い合わせが数件寄せられたケースもありました。
- ・ケアプラザのコンサートや地区センターの講座実施につながるケースもありました。

開催日	出演グループ（敬称略）	ジャンル	参加者数
2018/4/23（月）	古岩井序子 & 音緒の会	三味線	21 名
2018/5/28（月）	TH' s ファンタ sy	ミュージックベル&トーンチャイム	39 名
2018/6/25（月）	莉玲	ボーカル・手話ソング	21 名
2018/7/23（月）	日本の音色を楽しむ会	民謡	22 名
2018/8/27（月）	ママ音楽ユニット♪ショコラッティ♪	歌・楽器演奏	34 名
2018/9/25（火）	La Seed	クラシック音楽	31 名
2018/10/22（月）	藤田吟子	箏曲	42 名
2018/11/26（月）	TH' s ファンタ sy	ミュージックベル&トーンチャイム	51 名
2018/12/25（火）	La Seed	クラシック音楽	18 名
2019/1/28（月）	ママ音楽ユニット♪ショコラッティ♪	歌・楽器演奏	25 名
2018/2/25（月）	オカリナはま風	オカリナ	19 名
2018/3/25（月）	金子敏郎	カントリー & ウェスタン	30 名

計 353 名



●西区街の名人・達人によるミニ講座「来て・見て・聞いているの日」

- ・参加希望が増え、ひと月に 2 ～ 3 講座となる月もありました。
- ・人気の講座は希望者の要望を受け、年に 3 回の開催となったものもありました。講座開催後に希望者があつまり、自主グループや、自主企画の講座へ発展するものがありました。

開催日	題名	講師（敬称略）	参加者数
2018/4/17（火）	春の茶道体験	吉田宗玖	6 名
2018/5/8（火）	気軽にトールペイント	加藤幸子	6 名

2018/6/16 (土)	実は今だけ！新茶の魅力	井上香織	8 名
2018/7/10 (火)	消費者被害に遭わないために	NACS 東日本消費者研究会	5 名
2018/8/2 (木)	はじめての民謡舞踊	沼田幸恵	8 名
2018/8/19 (日)	莉玲さんのボイストレーニング	莉玲	22 名
2018/9/22 (土)	ハロウィンのミニタペストリー (3 回)	鈴木淳子	3 名
2018/10/8 (月)	ころばんよ体操	服部和男	5 名
2018/10/27 (火)	プロから学ぶフラメンコワークショップ	牛田裕衣	5 名
2018/11/18 (日)	莉玲さんのボイストレーニング	莉玲	12 名
2018/11/20 (火)	リボンで作るクリスマスリース	甘糟ますみ	19 名
2018/11/25 (日)	莉玲のボイストレーニング	莉玲	9 名
2018/11/30 (金)	干支の年賀状	吉田紅峯	8 名
2018/12/8 (土)	トールペイントのミニツリー	高野圭子	7 名
2018/12/10 (月)	ちゃぼさんと、打楽器を叩いてあそぼう！	加藤ちゃぼ	17 名
2019/2/10 (日)	みんなで楽しむおりがみ教室	芹澤洋子	6 名
2019/2/26 (火)	ハーバリウム ボールペン	甘糟ますみ	9 名
2019/3/7 (木)	3B 体操	奥山麻弓	8 名

計 163 名



●うたごえ広場

- ・ 参加希望人数が多数となった為、年度途中から事前予約制・午前、午後の 2 部制となりました。
- ・ 毎回参加する方も多く、西区内他の施設での演奏依頼も増えました。

開催日	演奏者	参加者数
2018/5/13 (日)	いち座にしエイチファイブ	45 名
2018/7/8 (日)	いち座にしエイチファイブ	51 名
2018/9/16 (日)	いち座にしエイチファイブ	50 名
2018/11/11 (日) 午前の部	いち座にしエイチファイブ	22 名
午後の部	いち座にしエイチファイブ	23 名
2019/1/13 (日) 午前の部	いち座にしエイチファイブ	42 名
午後の部	いち座にしエイチファイブ	24 名

2019/3/10（日） 午前の部	いち座にしエイチファイブ	34 名
午後の部	いち座にしエイチファイブ	40 名

計 331 名



●出張コンサート

- ・にしとも広場へ来館しにくい地域にも活動を知ってもらう機会として、今年度より出張企画を始めました。第六地区の民生委員等で構成する三ツ沢ハイタウン福祉会からの依頼で、以下を実施しました。

開催日時・会場	題名	出演者	参加者数
2019/3/13（水） 10：00～12：00 @三ツ沢ハイタウン集会所	出張コンサート in 三ツ沢ハイタウン	LaSeed	45 名



4) 『西区街の名人・達人』のホームページ掲載情報の更新

- ・新規登録の際には速やかにデータベースに追加するとともに、ホームページでも紹介し、活動の周知に努めました。

5) 登録団体・者の活躍&交流の場（「おりがみカフェ」「みちあそび」）

●「おりがみカフェ」

- ・幼児から高齢者まで多世代が参加。飲み物・お菓子付きのカフェ形式にし、ゆったりと楽しむ空間を演出しました。おりがみ初心者から上級者までそれぞれの交流を楽しみました。
- ・おりがみカフェ終了後には、講師同士の交流会を実施し、互いの作品や活動・思いなどを話す時間を持ちました。

開催日時	内容	参加者数
2018/7/29（日） 10：00-12：00	「おりがみカフェ 夏」 西区街の名人・達人登録のおりがみ講師 3 組による おりがみ教室	41 名

2019/3/24 (日) 10:00-12:00	「おりがみカフェ 春」 西区街の名人・達人登録のおりがみ講師 3 組による おりがみ教室 (同時開催) 読み聞かせボランティア「えほんのはら っぱ」による、えほんの読み聞かせ	37 名
------------------------------	---	------

計 78 名



●「みんなで!! みちあそび」

- ・子育て世代にしとも広場を知ってもらうことを目的に、昨年に引き続き、2 回開催しました。
多くの親子が参加して、チョーク遊び、水あそびなどを楽しみました。
- ・9 月開催時には、昨年度の地域大卒業生でもある「浅間台みはらしプレイパーク運営委員会」がボランティアとして参加しました。

共催：NPO 法人はぐっと、公益財団法人よこはまユース

開催日時	内容	参加者数
2018/7/22 (日) 10:00-12:00	チョーク遊び、水遊び、カプラ、新聞紙遊び 会場：にしとも広場の屋内・屋外	81 名
2018/9/2 (日) 10:00-12:00		(雨天のため) 13 名

計 94 名



< 2 > 登録団体の更新および交流の促進

1) 登録団体の更新

- ・更新時に、団体活動の現状や、必要なニーズを把握するよう努めました。

- ・ 団体登録募集のチラシを作成し、登録することのメリットをわかり易く伝え、新規登録につながる工夫を行いました。
- ・ 2019/3/31 時点の登録数 186 件。（2018/3/31 時点 171 件。15 件増加）

2) 登録団体の交流

- ・ 登録団体及び西区街の名人・達人の交流会（「みなさん×にしとも広場 ～未来はココから～」）を実施しました。

開催日時：2019/3/1（金） 交流会 16:00－17:00 懇親会 17:00－19:00

参加者：25 名（内訳：登録団体 12 名、街の名人・達人登録 12 名、地区センター 1 名）

- ・ 交流会では、各々の活動について、しっかりと語り、じっくりと聞く時間を設け、今後の交流や協働のきっかけを創りました。また、当センターへ望む役割や、一緒にやりたい内容を伺い、次年度以降に一緒に考えていく課題を共有しました。
- ・ 懇親会では、楽器演奏や、マジックなど西区街の名人・達人の方々による、自主的な特技の披露もあり、その場で、コラボ企画や活動依頼が決まるなど、活発な交流が生まれました。

↓参加者が望む、にしとも広場とのつながりや、やりたいこと（抜粋）

にしきシティガイドグループ	にしとも広場には、SOS 対応の場を期待する
日本茶インストラクター	にしともティーパーティ、美味しい西区のお菓子自慢をしながらお茶を飲む
SIDE BEACH	IT ツールを使ったショーの開催
共育会	名達×教育という企画を出して欲しい。
ブリリアみらいコミュニティ	活動団体のノウハウの紹介/ノウハウの共有
鈴木太郎似顔絵教室	にしとも広場に、仲間の募集を手伝ってほしい
まちづくりエージェント	パソコン・スマートフォン相談受付の西区版
にしき名達の会	ボランティアをしてくれる、または一緒に活動してくれる人材を紹介して欲しい



3) 団体のステップアップにつながる講座の開催

- ・ 西区社会福祉協議会と共催し、「車いす体験ボランティア」講座を年 2 回開催し、地域の中で障がいを持つ人との共生や、ボランティア、福祉について考える機会を作りました。
親子での参加や、一人暮らしの高齢者の参加もあり、実際に車いすでの移動や、目隠しをしての歩行などを体験しました。
- ・ 2018/8/17(金) 5 名 10/15(月) 3 名



＜3＞西区民まつりへの参加

- ・ 当日は雨天となり、予定していたチョーク遊びができず、室内のみでの開催となりましたが、349 名（昨年度と同等）の参加がありました。
- ・ にしく名達の会、NPO 法人はぐっと、藤棚商店街などの協力を得てスタンプラリーを実施しました。
- ・ 西区街の名人・達人登録者への呼びかけを行い、講師の作品をスタンプラリー景品として寄贈を依頼、その他の景品についても咲弘洞（居場所）、夢づくり三番館（障害者就労移行支援施設）から購入するなど地域資源を活用しました。
- ・ 西区街の名人・達人に登録の「カタビラーズの戦隊ショー」や、情報紙にしも広場 12 号取材団体「地域密着！着ぐるみ懐メロ音楽隊 日ノ出サンデーズ」のコンサート、自主事業を行う日本茶インストラクターのボランティア参加など、日々の関わりから生まれたつながりを大切にしました。



4. 地域支援事業

◆ 地域で活躍する人材の掘り起こしと養成

当センターに来館される「何かをしたい」「何ができるだろうか」「活動したいがどうしたらよいかわからない」というような思いを活動につなげるきっかけづくりをし、地域での活躍を促しました。

< 1 > 地域づくりの人材を養成する講座「西区地域づくり大学校」

1) 地域づくりの人材を養成する講座「西区地域づくり大学校 第7期（以下、西区地域大）」の開催

- ・本講座は、①講座後もつづく仲間づくり、②少人数制の連続講座、③講座終了後も“にしとも広場”が継続的に受講生を応援すること を特徴とし、全 6 回を区政推進課と協働で開催しました。
- ・日頃より身近な地域でつながる必要性が高まっていることを背景に、昨年度に続き、「居場所づくり」をコンセプトに、テーマは「自分らしさでつくるプラスワンのつながり」としました。全講座を通じて、居場所づくりの一步目となる、チャレンジプランの実践を後押しする内容としました。また、西区外も含めた、先駆的な事例の現場を実際に訪問し学ぶ機会を設け（第3講）、卒業後も受講生同士がつながり合えるように、コミュニケーションの時間を多く取り入れました（各講でワークショップ）。
- ・定員は、受講生同士のつながりや、受講後のフォローアップ体制を密にするため、今年度も 15 名とし、14 名の方が参加しました。参加者の年齢は、20 代から 70 代と、幅広い年代の方にご参加いただきました。（内訳：20 代 1 名、30 代 4 名、40 代 2 名、50 代 6 名、70 代 1 名）
- ・講座終了後は区役所と連携し、丁寧なフォローアップ・コーディネートを中心掛けました。その結果、にしとも広場を利用した自主企画化や、地域のおまつりとコラボした企画の実施につながりました。



	日時・場所	テーマ・内容
1	2018/9/20 (木) 9:30-12:30 @西区役所 1 AB 会議室 受講者数: 11 名	『テーマ: 自分を再発見! 得意だったこと・好きだったこと』 ・オープニング (開講の挨拶: 寺岡洋志氏 (西区役所区長)、受講生自己紹介、ガイダンス) ・講義: 「自分を再発見! 得意だったこと・好きだったこと」 講師: 長田英史氏 (NPO 法人れんげ舎 代表理事) ・分かち合いワーク
2	2018/10/4 (木) 9:30-12:30 @にしとも広場 受講者数: 11 名	『テーマ: 歩き出した先輩から学ぼう』 ・実践者トーク「自分のやりたいことをどう実現していくか?」 コーディネーター: 吉原明香氏 (認定 N P O 法人市民セクターよこはま事務局長)、パネリスト: あずまっこ (西区)、ducks (泉区)、ご近所さん会 (緑区) ・グループワーク「実践のふり返りを通して自分らしさを再発見する」 講師: 吉原明香氏

3	(1)2018/10/11 (木) (2)2018/10/18 (木) (3)2018/10/27 (土) (4)2018/10/29 (月) 受講者数：延べ 22 名	『テーマ：体感しよう！いろんな居場所』 各回 2 時間程度で、現地見学を実施しました。見学先では、活動についての話、質疑応答を行いました。 ① 森ノオウチ（横浜市青葉区） 受講者数：3 名 ② 藤棚デパートメント（横浜市西区） 受講者数：7 名 ③ 道あそび神田スポーツ広場（東京都千代田区） 受講者数：2 名 ④ さかみち文庫（横浜市南区） 受講者数：10 名
4	2018/11/1 (木) 9：30-12：30 @にしとも広場 受講者数：13 名	『テーマ：活動をはじめるための土台作り』 ・講義「フラットな組織運営／情報発信の仕方」 講師：長田英史氏 ・個人ワーク：チャレンジプラン作成
5	2018/11/15 (木) 9：30-12：30 @にしとも広場 受講者数：10 名	『テーマ：活動プランの実行に向けて準備しよう』 ・グループワーク：「チャレンジプランを共有しよう」 ・講義「チャレンジプラン作成のコツ」 講師：吉原明香氏 ・希望者個別相談会 ・個人ワーク：ニュースレター（準備号作成） ・全体共有
6	2018/12/13(木) 9：30-12：30 @にしとも広場 受講者数：11 名	『テーマ：チャレンジプランの実践報告会＆修了式』 ・チャレンジプラン実践報告会 ・講義「受講生へのメッセージ：これからの活動に向けて」 講師：長田英史氏 ・修了式 ★修了者 11 名



<アンケートより> 平均点 94 点（100 点満点中）

・何かやりたいと思っている方々とつながり合えたこと、自分の想いを表現できて共有できる場が持てたことは

とてもよかった。

- ・構造的なことから失敗を含めた体験談まで、毎回自分のことに重ね合わせて聞くことができた。会議については家族会議で試してみた。
- ・まずは自分であること。あり方を深く考える機会になった。
- ・こどもと一緒にというのを大切にしていますが、自分だけのタイミングだけではできないことも多く、それもまた良い時間に思えました。大変なこともありましたが、その時間の大切さに気づけた。

2) はじめての地域活動・市民活動応援講座（西区地域大プレ講座）の開催

- ・西区地域づくり大学校本校の講師の長田英史氏を講師に迎え、「居心地のよい場とは？」をテーマに開催しました。
- ・講座前半は長田英史さんの講演、会場中央図書館の書庫バックヤードツアー、後半は会場を移動し、CASACOの居場所見学と説明を受けました。
- ・プレ講座に参加した受講生6名が、西区地域大へ参加申込をし、地域大のプレ講座としても大きな役割を果たしました。

日時・場所	内容
2018/8/31（金） 10：00－12：30 @にしとも広場 受講者数：24名	・講演「居心地のよい場とは？」 ・中央図書館 バックヤードツアー ・地域の居場所見学 CASACO



<アンケートより> 平均点 83点（100点満点中）

- ・居場所づくりに関わっていなくても、既に私自身はいろんな場の中で生きていて、そこを居心地よくするためにできることがあるなあと感じながらお話を伺った。
- ・前半部分で「場づくり」について学ぶことができ、後半部分で実際に場づくりを行っている話をきくことができ、両者の話でつながるものを感じた。実際に活動している方の話を聞いたことはとてもためになった。
- ・活動することはすごく難しいことと思っていたが、今回の講義を聞いていろんな活動があることを知り、自分にできることも何かありそうと思った。
- ・バックヤードツアーが想像外でとてもよかった。図書館をよく利用しているが、もっと気を付けて本を利用するとは思った。
- ・カサコのような場所がもっと身近にたくさんあると良いと感じた。

<2> 地域活動・市民活動応援講座

ボランティアを始める上での心構えや実践者の話を聞く機会、実際の活動を体験してみる機会、気軽に参加できる趣味で集まる機会などを設け、幅広い層の活動参加を促しました。地域課題やニーズにあわせ、関連施設・機関と、企画段階から協力いただくなどの連携も考慮しながら実施しました。

1) 地域で活き生きイキメン講座

情報紙にしとも広場 12 号との連動企画として、地域での活動を生き活きと楽しんでいる男性（イキメン）をテーマに、前半は活動者のパネルトーク、後半は、活動場所の紹介として、区内の施設見学を行いました。

日時・場所	内容
2018/4/24（火） 10：00－15：00 @にしとも広場、戸部コミュニティハウス、藤棚デパートメント、藤棚ケアプラザ、藤棚地区センター 受講者数：4名	・オープニング（自己紹介） ・講演「イキメンのすすめ！パネルトーク」 三宅和夫さん（ばあばの家あさだ）、北川洋（にしとも広場職員） ・ランチ交流会＆施設見学 戸部コミュニティハウス⇒藤棚デパートメント（ランチ）⇒藤棚ケアプラザ⇒藤棚地区センター



<アンケートより>

- ・みなさんのいろいろな経験やコミュニケーションを通じてつながる力が必要と思った。
- ・先輩活動者の実活動や考え方を知ることができた。コミュニティハウス、地区センター、地域ケアプラザの内容を知ることができた。
- ・ボランティアを通しての地域活動の幅広さを知った。

2）地域で生き生きイキメン講座（パパ講座）

情報紙にしとも広場 12 号との連動企画として、地域での活動を生き活きと楽しんでいる男性（イキメン）をテーマに実施しました。講演「パパの声が活きる読み聞かせ」の後、子どもと一緒に読み聞かせの体験をし、座談会では受講者のパパ同士が交流を図りました。

日時・場所	内容
2018/5/12（土） 10：00－12：00 @にしとも広場 受講者数：17名 （親子14名、地域の方2名 中央図書館1名）	・講演「パパの声が活きる読み聞かせ」 横浜ダディ（パパーサークル）を主宰 北田 禅さん ・座談会 ※中央図書館の協力により「パパ向けの絵本一覧」を配布、同時に絵本を展示



<アンケートより> 平均点 98 点/100 点満点

- ・孤独だったパパとしての気持ちが心強くなった。
- ・父親同士コミュニケーションが取れる場としてとても有意義だった。
- ・絵本だけでなく育児全般の情報が共有できた。

3）外国につながる子ども対象 日本語・学習支援ボランティア養成講座・にしとも一む

- 西区でも近年増えている外国につながる子どもたち、その学習支援の場が必要とされていることから、「日本語・学習支援ボランティア養成講座」を実施しました。



日時・場所	内容
2018/7/9 (月) 15:00-17:00 @にしとも広場 受講者数: 23 名	「外国につながる子どもたちのことを知ろう」 ・横浜市内・西区内の外国人住民の状況と 多文化共生の取り組み ・「外国につながる子どもたち」って？
2018/7/13 (金) 15:00-17:00 @にしとも広場 受講者数: 20 名	「外国につながる子どもたちの支援について知ろう」 ・子どもたちの現状 ・支援の具体例 ・支援ボランティアになるには



<アンケートより> 平均点 1 日目 86 点 2 日目 88 点/100 点満点

- ・横浜、西区における外国につながる親子の現状や活動の様子が具体的にわかった。
- ・学習言語能力と生活言語能力の明確な差・段階について知ることができた。
- ・ユツカの会の活動について、横浜の活発な市民レベルの活動があることを知ることができた。
- ・日本語が全くわからない中、日本の小学校へ毎日通う子供たちがたくさんいることを、改めて知ることができた。
- ・外国から来た子が言語の壁につまずき、「自分が馬鹿になった気がする」と言っている子がいるということは、ショックを受けつつも納得してしまった。言葉や文化の壁を乗り越えた先のことを考えて、向き合う必要があることを感じた。
- ・実際の学習者である子どもたちの事例を通じて、子どもたちにとって何が大事なのかという具体的な事を示してもらえたことは、とてもためになった。

- 本講座の修了生が中心となり、2018 年 9 月より学習支援教室「にしともーむ」を開始しました。

(毎週火曜日 16:00~17:00、第 1・3 土曜日 10:00~12:00 実施)

様々な国につながる子ども 8 名程度の小学生が通い、ボランティアの方とマンツーマンで、宿題など、自分に必要な勉強をしました。

2018/9~2019/3 実施回数 41 回 子ども述べ参加数 113 人



4) 情報発信基本のキ

活動団体の情報発信力の向上を目的として、情報発信の基本の考え方、発信物のブランド化、情報発信のスケジュール管理、簡潔に相手に活動内容を伝える大切さなどについて学び合いました。

日時・場所	内容
2019/2/26 (火) 13:30-15:00 @にしとも広場 受講者数: 23 名	・講義「共感を生み出す情報発信」 講師: 株式会社イータウン 代表 斉藤保氏 ・終了後 参加者茶話会



<アンケートより> 平均点 90 点/100 点満点

- ・地域で活動することについて、いろいろな視点で考えることができていいなと思った。講座を受ける時間の中に

- ワークがあって、みなさんのお話を聞くこともできて良かった。ニュースレターの見せ方、勉強になった。
- ・信頼法則（ブランド）3 回の法則の良さと怖さ、どうやって本当の信頼を勝ち取るのか考えさせられた。
 - ・チラシづくりセミナーと思いきや、FB や WEB の活用も教えていただくことができ嬉しかった。
 - ・チラシ作成などの活動はキチンとできていると思うが、配付の仕方、場所への手渡しの際のひと言が足りなかったと思う。ロゴを入れたチラシ作成、これはぜひ活用したい。
 - ・チラシ一枚にも、前々からの準備や構想をしっかり持つことが大事だとわかった。

＜3＞意見交換会の実施

自治会町内会、センター利用者、地域人材ボランティア、区内関連施設などの方々にお集まりいただき、当センターの事業や役割について、また地域にある課題やニーズについてなど意見交換をしました。

開催日時：2019/3/29（金） 16：00－17：30

参加者：以下 9 名

西区第五地区自治会連合会 会長 平野 周二さん
西区第四地区社協 会長 米岡 美智枝さん
藤棚一番街協同組合 理事（今井かまぼこ店） 今井 宏之さん
藤棚一番街協同組合 理事（藤棚デパートメント） 永田 賢一郎さん
西区在宅介護者のつどいあけぼの会 代表 竹下 淳子さん
にしく名・達の会 会長 服部 和男さん
NPO 法人西区はーとの会 理事長 三宅 義子さん
ガッツ・びーと西 施設長 阿部 浩之さん
西区子育て支援拠点 スマイルポート 施設長 山田 美智子さん

＜ご意見より＞

- ・地域大の修了式などに地区社協にも声をかけてもらい、地域での卒業生とのつながりを作れたらよい。
- ・にしとも広場の情報発信は有効。情報紙など、これからも発信を続けてほしい。
- ・にしとも広場が中心となって、いろいろな面でのきっかけを作ってほしい。
- ・顔と顔のつながりが有難い。これからはもっとつながりを作ってほしい。

5. 区・区民利用施設等との連携事業

◆地域力アップを目指し、地域情報の共有と連携の促進

＜1＞区民利用施設等との連携会議の実施（年 1 回）

地区センターやコミュニティハウスなど、情報共有の機会を持ちにくい施設もあるため、貴重な情報提供・共有の場となりました。今年度は、連携に進むきっかけの工夫として「お土産カード」を用意しましたが、「お土産カードがあったので、すぐに連絡したり、行動に移すことができた」との感想を複数いただきました

日時・場所	内容
2018/12/21（金） 14：00－16：00 @西区役所 3 B会議室 参加：14 施設・1 課、 18 名	①高齢・障害支援課による情報提供 ②事前アンケートをもとにした事業発表・共有 ③お土産カードの記入（各施設に「いいね」「一緒に」の点で記入する） ・事前アンケートとして「今年度の連携事例、次年度の事業、ちょっと困っていること、一緒にしたいこと」を各施設から提出してもらい、とりまとめ一覧にしたものを当日全員の手元資料としました。 ・お土産カードの記載内容は、後日とりまとめ、一覧にして施設間で共有しました。

＜2＞センター事業における区内施設等との連携

●横浜市中心図書館との連携

昨年度開催した「未就学児向け読み聞かせボランティア講座」受講生を対象とした「フォローアップ講座」を12月に共催しました。受講後は活動グループとして立ち上がるよう支援し、「おりがみカフェ春」にて最初の活動機会を設けました。（P.10 参照）

●高齢・障害支援課との連携

地域で支える認知症を考える講座として、企画から、講師選定・依頼、広報などで連携し、両主催の講座として11月に開催しました。（P.3 参照）

●生活支援センターにし との連携

昨年に引き続き、『精神障がいについて 当事者から学ぶ』として、生活支援センターにしの利用者の方に登壇いただく講座を11月に開催しました。登壇することが、ご自身の自信やステップアップにつながると、双方にとって開催意味のある講座となりました。（P.3 参照）

＜3＞地域振興課が実施する生涯学習・市民活動支援講座「わが町、西区を知る講座」の運営支援

- ・「わが町、西区を知る講座」第3期の運営を支援しました。（2018年10月～2019年3月）
- ・第1期・第2期の事後グループが自主化・自立化するための支援を行いました。
- ・ガイドグループ「にしくシティガイドグループ」の活動支援として、当センターの活動団体、西区街の名人・達人の登録へつなげ、地域振興課と連携して活動定着を図りました。また同グループについて、情報紙「にしとも広場 13号」にて取材・掲載しました。

6. 施設環境への取り組み

◆ 小さな出会いを大切に、つながり・活動を育む、居心地の良い場へ

区民まつりやイベントに参加した親子が、友だちと一緒に来館し、キッズコーナーで子どもを遊ばせながら子育てイベントのチラシを見たり、地域づくり大学校の参加者が「にしとも広場」を使ってイベントを開催したりと、小さな出会いが次につながっています。丁寧な対応や、適切な情報提供と共に温かな場づくりを心掛け、「とりあえずにしとも広場に行ってみよう」、そう感じていただけるような、つながり・活動を育む場を作りだせるよう工夫しました。

1) 誰もが立ち寄りたくなる場づくり （再掲）

- ・昨年に引き続き、「昼どきコンサート」など、誰もが気軽に参加できるイベントを開催しました。

- ・ 参加者同士が知り合える、何となく仲良くなれるきっかけづくりを心掛けました。
- ・ 地域人材ボランティアバンクの登録者の発表の場としても活用しました。

2) 居心地の良い環境づくり

- ・ コーヒーコーナーとキッズコーナーを設け、居心地の良い空間を創りました。コーヒーコーナーを利用して、地域の方が休憩したり、区役所帰りの親子連れが食事をするなど、小さな居場所としての活用につながりました。
- ・ 配架しているチラシの中から、おススメ情報をピックアップして、入り口の掲示板に貼り出しました。
- ・ センターに立ち寄られた方に、センターを利用しての活動を積極的に呼び掛けました。



3) 施設内安全への配慮

- ・ チラシ配架のラックの状態や、掲示物については画鋲が取れていないかなどを確認しました。
- ・ 月に 2 回、日を定めて設備や機材を点検し、安心して利用できる環境とし、事故を未然に防止しました。
- ・ ノロウイルス対応セットを設置し感染拡大を防ぐよう努めました。

7. 職員配置体制・資質向上への取り組み

◆日頃からのコミュニケーションを大切に

職員個々のモチベーションはセンターの雰囲気にも影響します。日頃からのコミュニケーションを丁寧に行うことは、職員間の人間関係や、センターの雰囲気づくりや居心地のよさにつながると考えます。研修については、今年度も常勤・非常勤ともに、内外の研修に参加し、スキルアップと新しい視点を取り入れるよう努力しました。地域の中へも積極的に出向き、コミュニケーションの中で生きた情報の橋渡しができるよう心掛けました。

1) 現場訪問

- ・ 市民活動や地域活動の現場に出向く機会を大切にしました。
- ・ これらを職員間で共有する機会を設け、相談対応力やコーディネート力のアップにつながるよう努力しました。



〈くつろぎサロン〉



〈あまねちゃんカップ〉



〈ばんざいサロン〉

2) 相談力向上に向けた研修の実施（再掲）

- ・ 職員全員で行う会議において、定期的に、最近 1 か月で行った相談対応の中の、気になる事例をピックアップし情報を共有しました。また、内容について検討し、今後のよりよい対応につながるよう努力しました。
- ・ 職員研修において、相談対応における基本の 3 つのステップ（インテーク、コーディネート、クロージング）を再確認しました。

- ・ 活動団体、地域住民の方と一緒に学ぶ研修を開催し、共に学びながら基礎知識を高め双方のスキルアップにつながる機会を作りました。

3) 防災・減災、防犯、個人情報保護などに対応した研修の実施

- ・ 利用者がいる場合の地震や火災などの緊急時の対応や、不審者が来た場合の対応を職員会議等を通し学びました。
- ・ 個人情報保護に関する研修を全職員参加で実施し、さらに、日々の業務の中における情報漏えいを起こさない仕組みを全員会議で点検しました。
- ・ AED や心肺蘇生法の研修を全員が年 1 回受ける機会を設け、救急救命の基本を再確認しました。

4) 他区の区版支援センターとの情報交換および交流、研修への参加

- ・ 横浜市民活動支援センターが実施する研修および、ネットワーク会議に参加し、他地域の先進事例を学びあい、また、積極的に情報交換を行いました。
- ・ 相鉄沿線 6 区市民活動支援センター会議に参加し、情報の共有を含め連携を深めました。（年 1 回開催）
- ・ 他区のセンターを見学し、事業展開の方法や相談対応方法について、またセンター内の掲示物や配架方法の工夫について学ぶ機会を持ちました。

5) 外部研修への参加

- ・ 各職員が、自主的に、自らの成長に必要と考える研修に参加しました。

参加研修（抜粋）

開催日	研修名	主催等
4/20	子どもたちの居場所-外国につながる子どもたち-	特定非営利法人サードプレイス
7/20	中間支援組織スタッフのためのパワー支援力アップ	東京ボランティア・市民活動センター
6/28-9/27	地域活動を始めた人たちのための発信力 UP 講座	特定非営利活動法人森ノオト
8/24	生活困窮者支援からみた地域のつながり	生活創造空間にし
9/7	生涯学習実践研修「どうしたらできるの？事後グループ」	生涯学習・市民活動・地域支援関係職員研修
9/25	私たちの「共生」	NPO 法人びーのびーの
10/16	「ともに歩んで・ともに支え合う」	にこまちステップ・アップ講座
11/16	コーディネートの思考プロセスを鍛えよう	横浜市民活動支援センター
11/6-11/27	NPO スキルアップ講座 新聞記者に学ぶ発信力アップ講座	ソーシャルコーディネートかながわ朝日新聞ジャーナリスト学校
1/29-2/22	空き家を使った地域価値の創造講座	ソーシャルコーディネートかながわ NPO 法人モクチン企画
2/2-2/3	障害のある人とともに取り組むインクルーシブデザイン	NPO 法人よこはま地域福祉研究センター
1/12-1/13	コミュニティオーガナイズングワークショップ	コミュニティオーガナイズングジャパン
1/31	障害者権利条約について振り返る	生活創造空間にし

8. 西区役所との協働

1) 定例会議や組織会議でお互いの成果や課題を丁寧に共有

- ・ 定例会議を月 1 回実施するほか、日常的にお互いの事業やそれに関わる情報を共有しました。
- ・ 地域振興課管理職と当法人事務局長及びセンター長との会議の場「組織会議」を、四半期毎に設けました。センター運営状況や組織が一体となって運営していることをお互いに理解し共有し、信頼関係をさらに強めました。

2) 協働契約書を締結し、センターの事業目的の共有と双方の強みを活かした運営の実現

- ・ 区役所と民間である当法人が協働で事業運営に取り組むことで、双方の強みを生かし、相乗効果が得られるような運営としました。
- ・ 区役所幹部と当法人役員の意見交換の場を設け、センターの方向性を共有しました。

3) センター運営に関する協働のふりかえりの実施

- ・ 年度終了後に、「協働に関する相互検証シート」をお互いに作成し、にしとも広場の運営を協働で取り組んだことに関してふりかえりを行いました。

以上



平成 30 年度 シニア☆スター養成講座

■ 事業報告書 ■



平成 31 年 2 月 28 日 認定 NPO 法人市民セクターよこはま

●実施概要

主旨：

都筑区では地域活動につながる担い手育成のための講座を開催してきました。2018年度は特に、第3期地域福祉保健計画や、地域包括ケアシステムの構築に向けた生活支援体制整備の3年目の年です。円滑な推進に向けて、地域における顔の見える関係づくりを基にした支え合いのまちづくりを目指していることから、今年度は、地域の支え合いの活動につながる具体的なテーマで組み立てていきました。

なかでも、地域における「居場所づくり」は支え合いの重要な取組の一つであり、近年、都筑区内でもサロンなどの居場所が生まれていることから、その流れを捉えて、「居場所づくり」をテーマに、地域活動の担い手である受講者の皆様への、居場所づくり支援を実施しました。

実施体制：

主催：都筑区役所 高齢・障害支援課 高齢支援担当

協力：都筑区社会福祉協議会、都筑区内 地域ケアプラザ

委託：認定 NPO 法人市民セクターよこはま

実施期間：

2018年6月4日（月）～2019年2月18日（月）

＜全8回のうち、シニア☆スター養成講座 6回、フォローアップ講座 2回＞

対象者：

現在の活動を見直したい方、これから地域で活動をしたい方

募集方法：

地域ケアプラザより推薦（定員：25名）

参加者：

市民12名

職員10名（福祉保健センター長及び高齢・障害支援課・地域ケアプラザ・区社会福祉協議会）

講師：

NPO法人れんげ舎 長田英史 氏

認定 NPO 法人市民セクターよこはま 吉原明香

第1講 「想いを実現するために知っておきたいこと」

日時： 2018年6月4日（月） 13:30～16:30

場所： 都筑区役所 1F⑧ 多目的室（A）

【参加者：総数22名】受講生9名、区職員5名、区社協1名、 地域ケアプラザ5名、市民セクターよこはま2名

プログラム：

13:30- 開講挨拶

13:35- オリエンテーション・自己紹介タイム

14:05- 事例紹介 実践者の話を聞こう

発表者 ファミールカフェ 山家良知さん

14:40- 講義「場づくりとは」

講師 NPO 法人れんげ舎 長田英史さん

16:25- フィールドワーク紹介、事務連絡

16:30- 終了

●学びのまとめから <第1講> 81.4点

- 去年の受講者の方が実際にカフェを立ち上げていることに行動力を感じ、やる気が原動力になることを時間しました。
- 座学メインの講義でしたが、眠気もなくいい緊張感で参加できました。地域の方のお話をもっと拝聴したかったです。
- 場づくりの基本の中で、意思決定システム、トップダウンがフラット型かという点、実際の活動の中で時々混同されているので、ファミールカフェの立ち上げの話はとてもよかったです。

第2講 「自分の想いを地域につなげよう」

日時： 2018年6月11日（月） 13:30～16:30

場所： 都筑区役所 1F⑧ 多目的室（A）

【参加者：総数21名】受講生10名、区職員3名、区社協1名、地域ケアプラザ

5 名、市民セクターよこはま 2 名

プログラム：

13:35- 講義・事例紹介 地域と活動と私 豊かなつながりづくり

講師 認定 NPO 法人市民セクターよこはま 吉原 明香

14:00- ワークショップ「自分の体験、身近なつながりの場を振り返る」

16:15- 事務連絡、第三回見学先について

●学びのまとめから <第2講> 平均点 80.71 点

- 今までのことを文字に書いてみることで、自分への影響を考えられてよかったです。
- 人には人の人生があるということがわかりました。そのなかで、着実に歩んでいる姿が見え、自分の今後の励みにもなりました。
- 楽しかったです。なかなか人生、振り返りもせず……。そして他人の人生をお聞きすることもなく……。勉強になりました。グループの方に感謝です。

第3講 「まちのつながり実感」フィールドワーク

日時： 2018 年 6 月 15 日（木）～29 日（木）

日程	時間	見学先	参加者数
6 月 12 日（火）	18:00～	シェア奥沢	6 名
6 月 13 日（水）	13:00～	こまちぶらす	4 名
6 月 19 日（火）	16:00～	街カフェ 大倉山ミエル	6 名
6 月 21 日（木）	13:30～	おれんじぽこ福祉会	3 名
6 月 22 日（金）	13:30～	アーモンドコミュニティネットワ ーク	4 名



シェア奥沢



こまちぷらす

第4講 「これからどうする？活動のステップ」

日時： 2018年6月25日（月） 13:30 ～ 16:30

場所： 都筑区役所 1F⑧ 多目的室（A）

【参加者：総数 19 名】受講生 8 名、区職員 4 名、地域ケアプラザ 4 名、区社協 1 名
市民セクターよこはま 2 名

13:35- ワークショップ フィールドワークどうだった？！

15:05- 講義 「場づくりのステップ -会議のやり方 ～みんなで納得して活動するために～」

NPO 法人れんげ舎 長田 英史 さん

●学びのまとめから <第4講> 平均点 71.6 点

- ステップバイステップで知識レベルの向上を感じることができた。フラット型会議のやり方について、整理して話して頂いたのが参考になった。
- 見学はどこに行っても学ぶことがある。会議の運び方、理論と現実はというところがあるように思います。シェア奥沢の利用者が主人公のような活動はいいなと思いました。
- 主催者側の安心感が参加者の安心につながる、想いの共有が重要であるように思いました。会議の仕方、提案には目的+方法が重要。5つのステップをきちんと踏むことで、スムーズな流れで行える。組織としての会議と仲良しクラブの話し合いは別物だとよく認識できました。

第5講 「実行プランの応援します！（作成&アドバイス）」

日時： 2018年7月9日（月） 13:30 ～ 16:30

場所： 都筑区役所 1F⑧ 多目的室（A）

【参加者：総数 22 名】受講生 10 名、区職員 5 名、地域ケアプラザ 4 名、区社協 1 名、市民セクターよこはま 2 名

13:33- 講義「実行プラン応援します！-講義の振り返りとプラン作りのコツ」

講師 吉原 明香

14:00- ワークショップ「実行プランを共有しよう！」

16:00- 都筑区の助成金、横浜市の助成金について

●学びのまとめから <第 5 講> 平均点 76.25 点

- 実行プランの立案に向けたプロセスが理解できてよかったです。また「会議のやり方」が改めて参考になりました。
- 後半のプランづくりでは、活発な意見が飛び交い、とても有意義だった。場づくりとは自分が求める場を新しくつくること、人がより幸せになるきっかけをつくることにあるのだと学びました。
- 実行することには多々課題がある。現在はいろいろと忙しく、このことに時間をかける余裕がないので、時期を見て実現していきたいと思います。

第 6 講 「実行プランの発表&修了式」

日時： 2018 年 7 月 23 日（月） 13：30 ～ 16：30

場所： 都筑区役所 1F⑧ 多目的室（A）

【参加者：総数 25 名】受講生 11 名、区職員 6 名、区社協 1 名、地域ケアプラザ 5 名、市民セクターよこはま 2 名

13:32- 実行プラン発表会 - みんなで実行プランを発表しよう！（発表及び講師からのコメント）

15:30- 受講生全員で「イネ！」の交換会

16:00- これからの活動について 講師 長田英史 さん

16:10- 修了式・記念撮影

●学びのまとめから <第6講> 平均点 87.5 点

- 各個人のアクションプランの発表はすばらしくて良かったです。皆さんのアイディアや意気込みに感動しました。皆さんの成功を願っています。
- サービスを提供する側と受ける側の考え方のちがい、うけかたの違い、やりたい気持ちを引き出すことの重要性を感じました。なやまず、まずやってみよう、行動しようと思いました。
- 主催者の立ち位置から心の持ちようまで、とてもいねいにおしえていただけて良かったです。10 人以上のプランを聞く機会を与えていただき大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 各地域でそれぞれいろいろな問題を抱えていることがわかりました。「主催者が楽しめないと参加者も楽しめない」ということで楽しく活動していこうと思いました。
- 場をつくるということを考えたことがなかったので、なるほどと思いました。主催者の意識がそのまま場の空気につながるというのはその通りと実感します。



▲実行プラン発表の様子



▲卒業証書のお渡し

第1回 フォローアップ講座「学び合いの振り返りと、活動継続のコツ」

日時： 2019年2月4日（月） 13:30 ~ 16:00

場所： 都筑区役所 1F⑧ 多目的室（A）

【参加者：総数 15 名】受講生 4 名、区職員 3 名、区社協 1 名、地域ケアプラザ 4 名
市民セクターよこはま 3 名

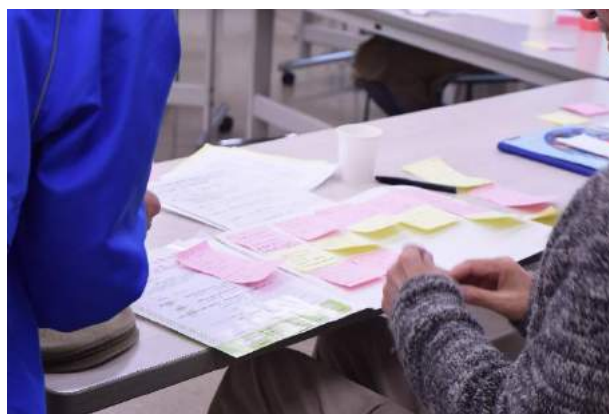
13:35- 講義「学び合いの振り返りと、活動継続のコツ」

講師 吉原 明香

14:00-わかちあいタイム

●学びのまとめから <第1回> 平均点 96.6 点

- 皆さん人集めに苦労されていることがわかって良かったです。SNS を上手に活用したいと思いました。
- 組織活動を推進している人達は、自分の想いや価値観を上手に伝えていくことが大事だと痛感しました。大変刺激を受けました。特に参考になったのは、「男を集めるには酒が一番」「相談先になること、困ったことがあったときに、こちらがきっかけ作りを用意すること」です。
- 家から出てこない人たちに、いかに参加していただける働きかけるか、民生委員さんと協力してやれることがまだまだあるなと気づかされた。



わかちあいタイムの様子

第2回 同窓会「活動を捉え直す～自分たちらしさから発想しよう～」

日時： 2019年2月18日（月） 13:30 ～ 16:00

場所： 都筑区役所 1F⑧ 多目的室（A）

【参加者：総数 26 名】受講生 14 名、区職員 5 名、区社協 1 名、地域ケアプラザ 4 名、市民セクターよこはま 2 名

13:35- 自己紹介

14:05- 講義 「活動を捉え直す～自分たちらしさから連想しよう～」

講師 長田英史 さん

15:00- 参加者からの実践報告

●学びのまとめから <第2回> 平均点 90.45 点

- 「活動が続けなくてはならない」というプレッシャーに少々しんどくなっていた。今日の講義の中で、プレッシャーにならないように期間を決めて、活動の方向性を振り返りながら、続けるべきかやめるべきかやっていけばいいんだと聞いて安心した。その場があるから人生が豊かになるという言葉でやる気が出てきた。関わる人にとって幸せにつながる場づくりが大事であることを忘れかけていた。
- 澤田さんの発表が印象に残りました。方に力を入れることなく、取り組んでいる様子はとても参考になりました。
- このセミナーの参加者が非常に熱心に行動されていることに勇樹をもらいました。長田さんのお話を聞くと、自分の考えを冷静に振り返りができてありがたかったです。



▲参加者からの実践報告の様子



▲長田氏の講義の様子

●まとめ：

シニア☆スター養成講座

シニア☆スター養成講座では、受講生の人生の振り返りや、これから取り組みたいことのリストアップなど、赤裸々な自己についての内省をおこなう場面が見受けられました。現在の自分が取り組みたい活動について整理するとともに、受講生同士が互いに良い影響を受け、前向きに実行プランの作成、およびその実施に取り組む姿勢が感じられました。

また、生活支援コーディネーターが担当地域の受講生のグループワークに参加することで、受講生の考え方や捉え方をじっくり聞くことができ、より深いレベルでのつながりを持つことができました。そして実際に、講座終了後も受講生と生活支援コーディネーターが連携して地域で実践を行うことにも結び付いています。

シニア☆スター養成講座同窓会では、活動の継続と長期的視点で活動を運営することを目的として、参加者間で活動の悩みについて共有がありました。活動継続がプレッシャーとなっていた受講生にとっても、他の受講生から課題解決のヒントを得るとともに、互いの真摯な取組への向き合いに感心

し、励まされた様子がうかがえました。

●今後に向けて：

地域活動の主な担い手となるシニア層の方々への「居場所づくり」支援の必要性は、今後益々高まっていくと考えられます。そのため、居場所づくりに関する講義や見学、実行プランの作成から検討まで行い、地域ケアプラザ職員が「実際にプランを実行すること」をまで伴走支援する講座を、今後も継続的に実施されていくことが望まれます。

2018年度
第4期 神奈川区地域づくり大学校

■ 事業報告書 ■



●実施概要

主旨：

「住んでいてよかった」と思える地域を自分たちの手で実現するため、地域課題を解決する手法を区内外の事例を交えて学び合う場。特に、自治会・町内会等の地域活動を支える人材育成をテーマに取組みます。

実施体制：

神奈川区連合町内会自治会連絡協議会

神奈川区役所

認定 NPO 法人市民セクターよこはま

（協力：社会福祉法人横浜市神奈川区社会福祉協議会）

実施期間：

2018 年 9 月 30 日（日）～2019 年 2 月 16 日（土）　＜全 6 回＞

対象者：

現在、神奈川区で自治会町内会等の地域活動（青少年指導員、子ども会、PTA、おやじの会など）に関わっていて、将来も、自治会町内会等での活動をしたい方、または、これから活動に関わりたい方

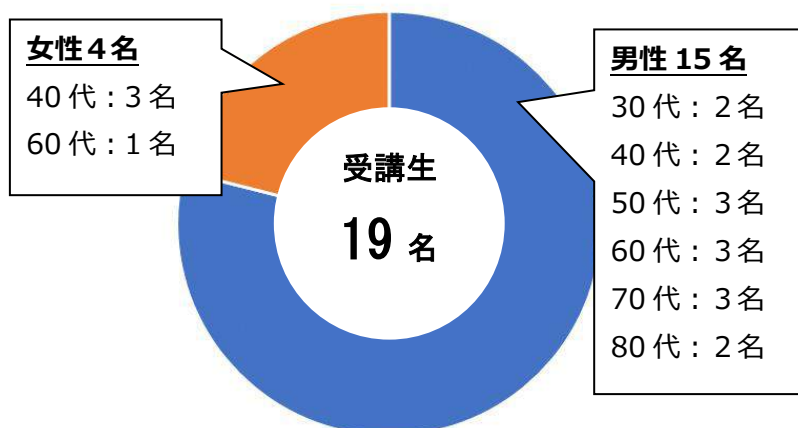
募集方法：

各自治会町内会長による推薦に基づき、各地区連合より公募（定員：20 名）

参加者：

市民 19 名
（うち自治会町内会推薦 10 名）

行政職員 7 名
（区長及び区政推進課、
区民活動支援センター）



卒業 18 名（うち、皆勤賞 8 名）

※卒業要件：夢プランの提出　※皆勤賞：全回出席・夢プランの提出

●プログラム：

第1講 9/30 時間：9:30-14:30 (日) 場所：神奈川区役所 5階大会議室 開校式 ランチ交流会 私たちのまち、神奈川を知ろう ～出会いから始まる地域づくり～  神奈川県の地域づくりに関する議員や受援生同士による交流を通じて、自分たちの地域の魅力や課題などを共有し、これからの課題の土壌とする。	第2講 10/21 時間：9:30-12:30 (日) 場所：神奈川区役所 5階大会議室 事例紹介 若手の取組からヒントを探る ～目からウロコのリレートーク～  区内外の自治会町内会等で活動する若手による取組について、リレートークとグループワークで理解を深めます。 ※紹介事例は「講師・訪問先一覧」を参照ください。	第3講 11/17 時間：9:30-16:00 (土) 訪問先：神奈川区内の現地訪問4か所 バスツアー 課外授業～ちょっと先を行く まちの先輩から学ぶ～  区内で働いている地域活動の現場をバスで回り、アイデアや取組方法を学ぶとともに、現場の力を体感します。 ※訪問先は「講師・訪問先一覧」を参照ください。	講師・訪問先一覧 第1講 ・「神奈川区の地域づくりに向けて」 富井 亨 氏 (社会福祉法人横浜市神奈川区社会福祉協議会 事務局長) ・「あらためて考えてみる地域の活動」 石井 大一朗 氏 (国立大学法人宇都宮大学 地域デザイン科学部 准教授) 第2講 ・「アイディアいっぱい！のシンプルで実践的な防災組織」 横山 清文 氏 (グランフォーラム横浜ブルース自治会) ・「子どもからつながる多世代循環の仕組み」 志村 友規子 氏 (北山田町内会) ・「地域のお父さんによる自治会町内会お助け隊」 飯田 大輔 氏 (P.P.T.の会) 第3講 訪問先 ・東神奈川公園を利用した地域交流 【第1期卒業生の取組】 (東神奈川町自治会) ・おとりわけ方式の地域防災 【よこはま地域づくり大学卒業生の取組】 (片倉町大丸町内会) ・電田地区緑化事業「街なみ花物語」 【第1期卒業生の取組】 (みどり公園守り育てる「地域環境向上委員会」) ・こども食堂「ふれあいっこ三ツ沢」 【第1・2期卒業生の取組】 (ふれあいっこ三ツ沢) 第4講 ・「男性も大勢！ さくらサロンの取組について」 坂部 文明 氏 (都立地区自治連合会会長) ・「地域づくりの5つのステップ」 吉原 明香 氏 (認定NPO法人市民セクターよこはま 理事・事務局長) 第5講・第6講 山崎 清貴 氏 (まちづくりコーディネーター)
第4講 12/9 時間：9:30-12:30 (日) 場所：神奈川区役所 5階大会議室 プラン作成① ムリなく楽しく始める第一歩 ～地域づくり5つの手順～  羽沢地区の高齢者交流サロンの取組や、まちづくりの現場者が見つけた地域づくりの手法を学び、「夢プラン」の作成に向けて第一歩を踏み出します。	第5講 1/19 時間：9:30-12:30 (土) 場所：神奈川区役所 5階大会議室 プラン作成② 自分の思いをデザインする ～地域に夢を描こう～  講師から個別にアドバイスももらいながら、受講生同士、お互いに「夢プラン」の内容をブラッシュアップしていきます。	第6講 2/16 時間：9:30-12:30 (土) 場所：神奈川区役所 5階大会議室 卒業式 地域にはばたく夢プラン発表会 ～つながり、広がる地域の輪～  これまでに得た気づきを受講生や地域のみなまと共に共有し、地域づくり大学校での様々な出会いから地域活動の輪を広げていきます。	

第1講 開校式 / 私たちのまち、神奈川区を知る～地域づくりと仲間づくり～

日時： 2018年9月30日（日） 9：30 ～ 14：00

場所： 神奈川区役所 5階大会議室

講師： 富井 亨 さん（社会福祉法人横浜市神奈川区社会福祉協議会 事務局長）

石井 大一郎さん（国立大学法人宇都宮大学地域デザイン科学部 准教授）

吉原 明香（認定NPO 法人市民セクターよこはま 理事・事務局長）

【参加者：総勢 26 名】

受講生 15 名

事務局 11 名（連合町内会 1 名・区職員 7 名・セクター3 名）

ねらい：

- ・ 神奈川区の地域づくりに関する講義や受講生同士の交流を通じて、自分たちの地域の魅力や課題などを共有し、これからの講座の下地（区内の地域や生活の現状・課題の共有、参加者同士の関係づくり）をつくる。

プログラム：

9:30- 開校式 ～挨拶～

佐藤 潮 （神奈川区連合町内会自治会連絡協議会 会長）

高田 靖 （神奈川区長）

松本 道雄 （認定NPO 法人市民セクターよこはま 副理事長）

9:50- 自己紹介タイム（全体発表形式）

10:30- オリエンテーション

10:40- 講義「神奈川区の地域づくりに向けて」

講師：富井 亨 さん

11:15- シェアタイム

11:30- ランチ交流会 ～休憩～

12:20- 講義「あらためて考えてみる地域の活動」

講師：石井 大一郎 さん

12:50- グループワーク「今、気になる地域のことを出し合ってみよう」

講師・進行：吉原 明香

14:28- 事務連絡

14:30- 終了

午前中は、開校式を行ったあと、受講生による自己紹介からスタート。全体で輪になり、地元の魅力などを交えた自己紹介を行い、お互いの距離が近くなってリラックスした雰囲気が生まれました。

全体オリエンテーション後、神奈川区社会福祉協議会事務局長の富井さんによる講義では、神奈川区における地域の現状や課題等についてお話いただき、シェアタイムでは講義の内容を受けて、自分の暮らしや世代に引き付けて考えたこと・感じたことをグループ内で共有しました。

お昼の時間は「ランチ交流会」として、食を通じた子どもの健康や、障がい者支援に等に取り組む「みんなの食場」さんのお弁当をいただきながら、同年代グループで交流を深めました。



午後は、宇都宮大学准教授の石井さんによる講義からスタート。自治会町内会の取組みについて、その目的や機能で整理し、地域の中にどのような活動が存在しているのかを理解しました。その後のグループワークでは、自分たちが今地域で気になっていることを出し合って意見交換をしました。既に地域で活動している方が多く、とても活発な話し合いが行われました。



<学びのまとめ・アンケートから>

内容に対する点数

平均 92.9 点（15 名中 15 名回答）

※以下、100 点以上は全て 100 点として換算

50 点～	0 人
60 点～	0 人
70 点～	1 人
80 点～	2 人
90 点～	5 人
100 点	7 人



- ・ 少子高齢化、単身世帯が増加しており、地域で支えあいつながりを考案する必要があると思った。2025 年問題について地域包括ケアシステムの体制を強化する必要があると感じる。支えてもらう人をへらし、支える人を増やすべく健康に留意して支える人になりたいと考えた。人々の困りごとを様々な解決する取り組みが重要であると学んだ。（50 代男性）
- ・ 色とりどりの参加者、シニアばかりだと思ったが若い人が多かったので驚き楽しかった。平均 54 才は good。（70 代男性）
- ・ 地域づくりで大切なことは、知る、聴く、連携するというキーワードということがなるほどと思いました。グループワークでは他の方が考えていること、実践していることを聞けて参考になりました。（40 代女性）

第2講 若手の取組からヒントを探る～目からウロコのリレートーク～

日時： 2018年10月21日（日） 9:30～12:30

場所： 神奈川区役所 5階大会議室

講師： 横山 清文 さん（グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会）

志村 友規子 さん（北山田町内会）

坂田 大輔 さん（P. P. Tの会）

【参加者：総勢26名】

受講生15名、卒業生1名、その他1名

事務局9名（区職員7名・セクター2名）

ねらい：

- ・ 区内外の事例から、地域の若手による取組み、若手の参加を広げている取組みにおけるヒントを得る。

プログラム：

9:30- はじめに（アイスブレイク・本日の趣旨説明）

9:40- リレートーク（区内外3名の方々による活動報告）

進行：吉原 明香

「シンプルで実践的な防災組織の事例紹介」

横山 清文 さん（戸塚区：グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会）

「子どもからつながる多世代循環のしくみ」

志村 友規子 さん（都筑区：北山田町内会）

「地域のお父さんによる自治会町内会お助け隊」

坂田 大輔 さん（P. P. Tの会）

10:55- 休憩

11:05- ワールドカフェ

進行：竹田 雄矢（神奈川区役所）

12:24- アンケート記入・事務連絡

12:30- 終了

第2講では、横浜市内で地域活動をしている若手の方々をお招きして、各テーマで事例報告をしていただきました。

【戸塚区】横山 清文 さん（グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会）

マンション自治会における自主防災組織の取組みについての発表。災害時対応マニュアルをゼロから作り上げ実践、自助と共助の活動範囲を明確にし、またメンバーが長く活動できるよう工夫して取組んでいます。



【都筑区】志村 友規子 さん（北山田町内会）

子ども会の活動を支える北山田地域ボランティア「キタボラ」の仕組みについての発表。「保護者の負担を減らす」「入会者数を増やす」ことを目的にキタボラの仕組みを立ち上げ、メールを活用した登録制を導入するなどの工夫により、多くの地域の人たちの参加につながっています。



【神奈川区】坂田 大輔さん（P. P. Tの会）

お父さんたちが地域の活動に参加しやすいようにと発足したグループ。餅つきなど、自治会町内会が行っているイベントをサポートするほか、季節ごとに自主イベントを開催し、地域を盛り上げています。「楽しむ!」「無理をしない!」「一人でしない!」など、地域活動への向き合い方を伝えていただきました。

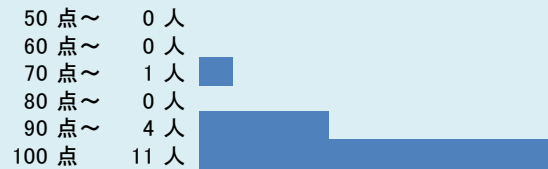


事例発表後は、ワールドカフェ形式で、それぞれのグループに分かれている発表者を受講生が順番で回り、発表者への質問やグループ内でのディスカッションを行いました。

<学びのまとめ・アンケートから>

内容に対する点数

平均 **95.6 点** (17 名中 16 名回答)



- ・ 共助、自助を明確にされていて、自分の防災意識を改めて考えさせられました。今現在、子ども会に参加しているので、とても参考になりました。子供会の班長さんにもお伝えしたいです。P.P.T 知らなかったです。活動方針等、参考になりました。今後の活動のヒントにしていきたいです。(40 代女性)
- ・ 防災委員会の活動が非常に合理的でシンプルで参考になった。北山田町会の子ども会のお話もとても参考になりました。P.P.T の活動の楽しむ、無理をしない、一人でしない、気長に！のフレーズがとても参考になりました。3 人の方々とも、非常にお話しが分かりやすく、楽しく聞けました。(50 代男性)
- ・ やらされる負担感ではなく、自らやりたいことをやる仕組みが大切。同じことをやってもその後の循環が全然ちがう。やりたいことをやる主体性、自主性のパワーは大きくてすごく大切だということをあらためて感じることができました。ありがとうございました。(第 1 期卒業生)

第3講 課外授業～ちょっと先を行くまちの先輩から学ぶ～

日時： 2018年11月17日（土） 9:30～16:15

訪問： 東部御殿町自治会 東神奈川公園を利用した地域交流

片倉町大丸町内会 おとなり場方式の地域防災

みどりと水を守り育てる「地域環境向上委員会」 菅田地区緑化事業「街なみ花物語」

ふれあいっこ三ツ沢 こども食堂「ふれあいっこ三ツ沢」

【参加者：総勢 24 名】

受講生 14 名、卒業生 3 名

事務局 7 名（区職員 5 名・セクター 2 名）

ねらい：

- ・ 神奈川区地域大の卒業生ほか、区内の身近な取組みを訪問し、取組みのアイデアや手法等について学ぶ。
- ・ 卒業生の取組みを知り、夢プラン作成から実際の取組みまでのイメージを持つ。
- ・ 受講生と卒業生のつながりをつくる。

プログラム：

9:30～ 神奈川区役所 集合・出発

○ 東部御殿町自治会 東神奈川公園を利用した地域交流

9:40～ 活動紹介・見学@東神奈川公園

○ 片倉町大丸町内会 おとなり場方式の地域防災

10:30～ 現地まち歩き

11:20～ 活動紹介@片倉三枚地域ケアプラザ

12:00～ 片倉三枚地域ケアプラザ 事業紹介

12:20～ 昼食

○ みどりと水を守り育てる「地域環境向上委員会」 菅田地区緑化事業「街なみ花物語」

13:30～ 現地まち歩き・活動紹介

○ ふれあいっこ三ツ沢 こども食堂「ふれあいっこ三ツ沢」

14:40～ 会場見学@三ツ沢東町会館

15:15～ 活動紹介@沢渡三ツ沢地域ケアプラザ

16:15 神奈川区役所 解散

第3講は、神奈川区地域づくり大学校の卒業生の取組みを訪ねる現場訪問。活動の様子を見たり、まち歩きをしたり、現場の雰囲気を感じながら各関係者からのお話を聞くことで、活動している方の熱意が伝わり、とても刺激になりました。

東神奈川公園を利用した地域交流（東部御殿町自治会）

自治会館がない町ですが、公園での清掃活動を行うことで、地域の人たちの集まる機会を作り出しています。当日は、子どもたちも含め、多くの方たちが清掃活動に参加している様子を見学することができました。



おとなり場方式の地域防災（片倉町大丸町内会）

隣近所の数軒を単位とする「おとなり場」を組織して、災害時には自分たちで決めた集合場所に集まり、お互いの安否確認や見守りができるよう、取組んでいます。住宅街をまち歩きしながら、随所にある工夫を見ることができました。



街なみ花物語（みどりと水を守り育てる「地域環境向上委員会」）

横浜市の「地域緑のまちづくり事業」の助成金を受けながら、菅田町のバス通りに沿って、バス停周辺や商店前などに花壇を設置して、まちの魅力向上に取り組んでいます。メンバーの得意なことを活かしたグループづくりなどは大変参考になりました。



こども食堂「ふれあいっこ三ツ沢」(ふれあいっこ三ツ沢)

「三ツ沢東町自治会館」で月2回開かれているこども食堂。活動にあたっては、市民農園やコープ、協会などからの食材提供、元配食グループや男の料理サークルの方たちによる調理協力、学生らによる学習支援など、多くの人たちの協力によって運営されています。



<学びのまとめ・アンケートから>

内容に対する点数

平均 **96.3 点** (17 名中 15 名回答)

50 点～	0 人
60 点～	0 人
70 点～	0 人
80 点～	2 人
90 点～	2 人
100 点	11 人



- ・ 東部御殿町では、街づくりについて学ぶ。大丸町では、防災の知恵について感心し、菅田町では、元気なお年寄りにお目にかかり、三ツ沢東町では、活気ある女性たちの活躍ぶりを知ることができました。(70 代男性)
- ・ それぞれ企画され立ち上げられた人の情熱が並々ならぬものである事に感心。(70 代男性)
- ・ 菅田町の取組、全体としての動きと部分のバランスがよかった。片倉大丸のような町づくりが望ましい。三ツ沢も良くできていました。みんな輝いて見えました。(70 代男性)
- ・ おとなり場方式で町会の従来のやり方とは別に強力なリーダーシップで実行してきたこと。街なみ花物語のリーダーの田中さんの熱意とユーモア。ふれあいっこ三ツ沢の小川さんのガッツとピンチをチャンスにしていこうとらえ方。東神奈川公園の地道な活動、出来る事から着実にやっていく姿勢。(70 代男性)

第4講 自分たちの手で始めるまちづくり～地域づくりの5つの手順～

日時： 2018年12月9日（日）9：30 ～ 12：30

場所： 神奈川区役所 5階会議室

講師： 岐部 文明 さん（羽沢地区自治連合会会長）

吉原 明香 （認定NPO法人市民セクターよこはま事務局長）

【参加者：総勢23名】

受講生14、卒業生1名

事務局8名（区職員6名・セクター2名）

ねらい：

- ・ ハードルを上げすぎない、身近な地域の取組みを知る。
- ・ 地域づくりの5つのステップを学ぶ。
- ・ これまで学んだことを活かしながら、夢プラン作成にとりかかる。

プログラム：

9:30- はじめに

9:35- 第1～3講のふりかえり

9:55- 活動報告「さくらサロンの取組みについて」

発表：岐部 文明 さん

10:30 休憩

10:40- 講義「地域づくり5つのステップ&夢プランシートの作成について」

講師・進行：吉原 明香

11:15- 個人ワーク：夢プランづくりはじめの一步〔書いてみよう！編〕

11:30- グループワーク：夢プランづくりはじめの一步〔プラン共有編〕

12:10- 支援制度に関する情報提供

12:20- アンケート記入・事務連絡

12:30- 終了

第4講では、団地集会所でサロンの取組みをされている、羽沢地区自治会連合会会長の岐部さんにお話を聞きました。男性の方でも参加できるようなサロンがあれば、という考えから始めた取組み。「トライアンドエラーで、失敗したら変えればいい」「参加者とスタッフを分けない」など、サロンの企画・運営におけるポイントは、自分たちの活動を考えるうえでのヒントになりました。

後半は、冊子「地域づくりの知恵袋」から「地域づくりの5つのステップ」に沿って、地域の中で活動を進めていくうえでのプロセスやポイントについて学ぶ講義。それを踏まえて、夢プランシートを作成にトライしました。



<学びのまとめ・アンケートから>

内容に対する点数

平均 **91.8 点** (15 名中 13 名回答)

50 点～	0 人
60 点～	0 人
70 点～	0 人
80 点～	2 人
90 点～	8 人
100 点	3 人



- ・ 報連相（企業）ではなく相・連・報は目からウロコの発想で、重要だと感じました。「行くところがあって、やることあって、ありがたいと言われるこれが最高」すばらしい言葉です。「地域で仲間を増やして地域でやることは間違いなく、その人も幸せになる」正に名言であり、実践したいと思います。1人ではなく→3人→5人と仲間を増やすことはとても大事だと考えました。（50代男性）
- ・ 同じグループ内の3人の目標が似ていることに驚き、いろいろなことができそうだと夢をふくらませることができた。（60代男性）
- ・ 岐部会長の話しにあった何でもまず始めてみる。だめならやめればいい。失敗はしてもいいという話がためになりました。（30代男性）

第5講 自分の思いをデザインする「夢プラン」づくり

日時： 2019年1月19日（土）9：30 ～ 12：30

場所： 神奈川区役所 5階会議室

講師： 山路 清貴 さん（横浜市まちづくりコーディネーター）

【参加者：総勢28名】

受講生16名、卒業生5名

事務局7名（区職員5名・セクター2名）

ねらい：

- ・ 講師による個別アドバイスと受講生同士の意見交換を通じて、夢プランを作成する。

プログラム：

9:30- はじめに（本日のプログラム、卒業生の紹介、アイスブレイク）

9:35- 講義「良い企画づくりのポイント」

講師：山路 清貴 さん

9:50- 説明：夢プラン作成ワーク・個別質問タイムの進行について

進行：関尾 潤 （認定NPO法人市民セクターよこはま）

9:55- グループワーク（夢プラン作成ワーク）・グループ別相談タイム・清書タイム

12:17- 講師の山路さんより総括的アドバイス

12:22- アンケート記入・事務連絡

12:30- 終了

第4講で作成に取り組み始めた夢プランを、さらに完成に近づけていくことをねらいとした第5講。講師の山路さんから、はじめに企画づくりのポイントを示していただいてから、プラン作成に取り組みました。

良い企画づくりのポイント 講師：山路さんの資料より

1. まず、自分がやってみたいか。
2. 目にした人が、やってみたい／やってほしいと思ってくれるか。
3. 自分の言葉（市民の言葉）で記されているか
4. 言いたいこと（結論）から記しているか。
5. 一番書きたい所から書く。
6. まず3人の仲間からやれることであるか。
7. 現場がイメージできるか。
8. 地域の宝が真ん中に置かれているか。
9. たくさん突っ込まれた企画は先（見込み）があると思うべし。
10. まわりの人が、色々と尾ヒレをつけて盛り上がった企画は良いところを持っている証拠。その部分を大切にすべし。

プラン作成は、内容やテーマが近い受講生同士が同じグループとなって取り組みました。山路さんからはグループごとにアドバイスいただき、幅広い事例の中から様々なアイデアや視点をいただきました。また、平行して受講生同士による意見・アイデア交換を行い、プラン内容をブラッシュアップしていきました。



<学びのまとめ・アンケートから>

内容に対する点数

平均 **92.0 点** (21 名中 15 名回答)

50 点～	0 人
60 点～	0 人
70 点～	1 人
80 点～	2 人
90 点～	6 人
100 点	6 人



- ・ 荒井氏（卒業生）の「つながり」への情熱は素晴らしいです（イベント企画）。アドバイスも取り入れて夢プランを実現させたい。山路先生の「昭和レトロ」の話も印象深かった。（50 代男性）
- ・ 「みんなの工作室」そのものを作ってしまう、というアイデアをいただき、大賛成。いい出会いがありました。ルンルン。（60 代男性）
- ・ 父親を集めることを考えていましたが、山路さんからのコメントで、「若い父親のテーマは“子ども”しかない」と頂き、子どもを含めた活動にすることが良いことに気づきました。インスタ映え、アウトドア等トレンドを取り込むことで盛り上げるヒントになると気づけました。地域の宝と自分のしたいことをつなげて考えるとアイデアの広がりがありますね。（30 代男性）

第6講 地域にはばたく夢プラン発表会～つながり、広がる地域の輪～

日時： 2019年2月16日（土）9：30 ～ 12：30

場所： 神奈川区役所 5階大会議室

講師： 山路 清貴 さん（横浜市まちづくりコーディネーター）

吉原 明香 （認定NPO法人市民セクターよこはま事務局長）

【参加者：総勢43名】

受講生15名、卒業生・自治会町内会関係者17名

事務局11名（連合町内会1名・区職員8名・セクター2名）

プログラム：

9:30- 第1部：卒業式

修了証・皆勤賞授与

地域づくり大学校長 挨拶・・・佐藤 潮（神奈川区連合町内会自治会連絡協議会会長）

区長より祝辞・・・高田 靖（神奈川区長）

第4期卒業生代表 挨拶・・・大庭 秀和 さん

おわりに・・・吉原 明香（認定NPO法人市民セクターよこはま 理事・事務局長）

10:15- 第2部：夢プラン発表会

コメンテーター： 山路 清貴 さん 進行：吉原 明香

12:10- 交流タイム

12:30- 閉会 ※閉会后、同会場にて懇親会を開催

第6講は、卒業式&夢プラン発表会。多くの自治会町内会長にもご参加いただき、盛大な雰囲気の中で開催されました。

卒業式では、18名が夢プランを作成して修了した旨と、皆勤賞を受賞した8名の紹介がありました。卒業生代表の大庭さんからは、地域づくり大学校を通じて世代を超えた出会いがあったことや、今後も楽しく活動していきたいという意気込みが語られました。

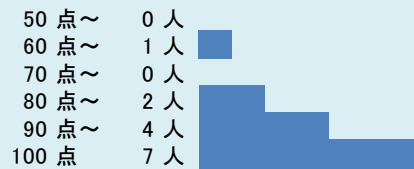
発表会は、一人ずつ、全員の前で発表し、テーブルごとに山路さんからコメントをいただく形で進行。みなさん、自身の思いを込めながら堂々と発表されており、これまで地域づくり大学校に参加し、ともに学び合ってきた集大成ともいえる内容でした。



<学びのまとめ・アンケートから>

内容に対する点数

平均 **91.8** 点（15 名中 14 名回答）



- ・ 各地区別でグループ分けしており、近隣の方々と知り合いができた。地域の様々な活動は全く初めてだったけど、よく理解できた。（50 代男性）
- ・ 最初は『夢プラン？』なんて自分にあるのだろうかと思直疑問でしたが、回を重ねるにつれて、考えることができ、具体的にまとまったアイデアになったことが、とても感慨深く思います。（30 代男性）
- ・ 実際に活動している方の所へ行けたり、話を聞いた事がとても良かったです。知り合いが増えたこともありがたかったです。（40 代女性）
- ・ 座学ではなく現場主義だった。卒業生の活動をマイクロバスで見てまわれた。プログラムの内容、運営が良かった。先生といわれる方の的確なアドバイス。（70 代男性）

平成 30 (2018) 年度 報告書

泉 区

まちづくりみらい塾

水と緑の豊かな泉区のまちを、もっと住みやすくするために

第 7 期



主催団体 (三者協議運営)

泉区まちづくりみらい塾 / 泉区区政推進課
認定NPO法人市民セクターよこはま

1) 事業報告

■現場体験の実施などの現場性を重視した講座内容

自分の住む地域の困りごとを「何とかしたい!」と思っている方（自治会・町内会の役員、地域活動の担い手、地域活動に興味関心のある方）のための半年間の研修プログラムである本事業は、今年が7年目となります。泉区まちづくりみらい塾は、地域課題に取り組んでいる自治会・町内会の事例見学や講座・グループワークを通して学び合い、地域のさまざまな問題を協力し合いながら解決していく「自治の力」を身につけるためのカリキュラムを実施しました。

■実施期間 平成30年8月25日（土）～平成30年12月22日（土）

■対象者

- ①これから地域活動をしてみようと考えている方
- ②自治会町内会の役員、地域活動の担い手、NPO、地域ボランティア、地元の企業の方
- ③泉区在住・在勤の方 ※退職された方、子育て中の方大歓迎

■広報と受講生の決定

定員15名のところに19名の応募がありました。■講義の実施

入学式・卒業式を含めて、講座を6回実施しました。本講座のうち、2回は現地見学会を行いました。

開催日時	内 容
8月25日(土) 13:30~17:00	第1講：開講式・講義・交流 ■ 講義「<u>地域づくりの5つの手順を聴き地域づくりの流れを学ぶ</u>」 ■ <u>課題共有グループワーク・まち歩き準備</u>
9月27日(木) 9:00~15:00	第2講：まち歩き初めの一步 ■ <u>区内方面別まち歩き</u> ■ <u>マップづくり（グループワーク）</u>
10月25日(木) 13:30~17:00	第3講：個人ワーク ■ <u>第2講 区内方面別まち歩きの報告</u> ■ <u>ワーク：自分の体験・身近なつながりの場をふりかえる</u> ■ <u>3人1組となって分かち合い</u>
(1)11月7日(水) 9:30~13:00 (2)11月8日(木) 12:30~15:30 (3)11月3日(土) 11月9日(金) 9:45~13:30	第4講：現地見学会（区外） 選択 (1) こまちカフェ（戸塚区） 講師：多田 香菜 氏 (2) Yワイひろば（磯子区） 講師：河原 勇輝 氏（株式会社太陽住建） (3) 庄戸の元気づくり（栄区） 講師：芦川 弘 氏（庄戸の元気づくり 代表）
12月1日(土) 15:00~18:00 ※18:00~懇親会	第5講：私のまちの「チャレンジプラン」作成 ■ <u>卒業生リレートーク</u> ■ <u>まちづくりに関する支援制度について</u> ■ <u>私のまちの『チャレンジプラン』を描く</u>
12月22日(土) 13:30~16:00	第6講：卒業式・プラン発表・卒業記念懇親会 ■ <u>チャレンジプラン発表</u> コメンテーター：内海宏氏 ■ <u>卒業式</u>

■プログラムの開発

泉区まちづくりみらい塾・泉区区政推進課及び市民セクターよこはまが事業に関する意見交換、会場・備品利用、広報、事務スペース提供、運営などにおいて協力・連携を行いました。

泉区まちづくりみらい塾

〈塾長〉佐久間 幹雄 〈事務長〉長谷川 幹夫 〈事務次長〉黒澤 彦章
〈顧問〉日並 勇 小泉 正彦 馬場 勝己 大貫 芳夫 〈相談役〉内海 宏

認定 NPO 法人市民セクターよこはま

認定 NPO 法人市民セクターよこはま（理事長）中野 しずよ
吉原 明香 薄井 智洋

泉区

泉区（区長）額田 樹子（副区長）高橋 寛（地域力推進担当課長）粟竹 史明
（地域力推進担当係長）田嶋 淳一（地域力推進担当）佐藤 洋介



2) 講義の実施

開校式・卒業式を含めて、講座を6回実施しました。

第1講 8月25日(土)

開講式・講義・交流

「地域づくりの5つの手順を学ぶ」

■講師：佐久間 幹雄（泉区まちづくりみらい塾塾長）

吉原 明香（市民セクターよこはま事務局長）

■場所：下和泉住宅自治会館

■次第

第1部

- 13:30-13:50 開講式 【司会：長谷川幹夫 事務長】
- ・協働三者挨拶（佐久間幹雄、中野しずよ、高橋寛）
 - ・来賓挨拶
- 【泉区連合自治会町内会長会 副会長】
馬場 勝己
- 【泉区社会福祉協議会 会長】
大貫 芳夫

第2部

- 13:50-14:10 自己紹介ワーク（お一人1分）
- 14:10-14:35 「地域づくりの5つの手順」を聴き、
地域づくりの流れを学ぶ 【講師：吉原明香】
- 14:35-14:45 休憩
- 14:45-15:35 課題共有ワーク（グループワーク1）
- 15:35-16:00 「まち歩きのポイント」のレクチャー
- 16:00-16:55 まち歩き準備（グループワーク2）、次回まち歩き説明
- 16:55 - 17:00 閉会の挨拶 【黒澤彦章 事務次長】

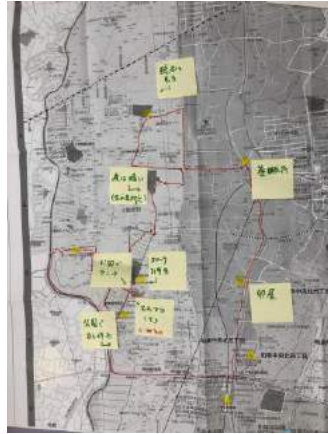


佐久間塾長よりご挨拶



地域づくりの5つの手順を解説

お互いを知る機会として「自己紹介ワーク」を実施。その後、第2講のまち歩きのグループに分かれ、事務局の吉原より「まち歩きのポイント」をレクチャー後、実際にどのルートを歩くか、グループごとに話し合い、まち歩きルートを決めていきました。



受講生自らまち歩きルートを決めていきます

第2講 9月23日(土)

まちづくり初めの一步 「区内方面別まち歩き/マップづくり」

概要

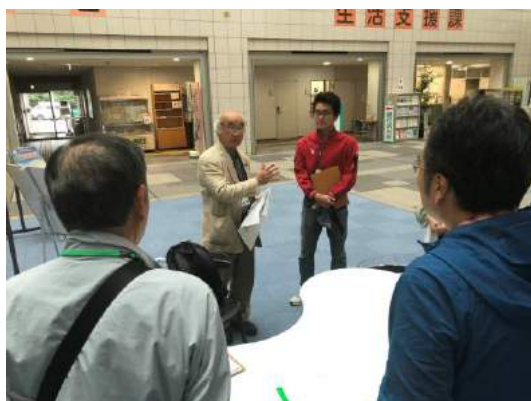
日時 : 2018年9月27日(木) 9:00 ~ 15:00
 場所 : [A班] 泉区役所1F スタート
 [B班] 相鉄線「緑園都市駅」西口郵便ポスト前 スタート
 [C班] 市営地下鉄「下飯田駅」改札前 スタート

次第

-
- | | |
|--------|--|
| 9:00~ | ◆ まち歩きルートを確認し、まち歩きへ出発！
~まち歩き スタート！~
途中休憩を15分~30分とってください。
※昼食は各グループで |
| 13:30~ | ◆ グループワーク ~マップづくり~
・魅力ポイント、課題ポイント作成
・該当箇所への貼りだし
・意見交換 |
| 14:50~ | まとめ |
| 14:55~ | 事務連絡（次回講座のお知らせ） |
| 15:00 | 終了 |
-

3つのグループに分かれて、まち歩きとマップづくりを体験しました。グループごとに自分たちで決めたルートに沿ってまち歩きをし、まち全体を様々な視点から捉えた後、マップづくりにチャレンジしました。

地元の方にまちを案内していただく事で、地域の特色や魅力を発見しながら、マップ作りの手法を学び合うことができました。



まち歩き後は、各グループでマップ作りやまち歩きで気付いた点を共有・意見交換を行いました。

第3講 10月25日(土) 個人ワーク「自分の想いを地域につなげる」

概要

日時 : 2018年10月25日(木) 13:30 ~ 17:00
場所 : 泉公会堂第一会議室
講師 : 吉原明香 (認定 NPO 法人市民セクターよこはま 理事・事務局長)

次第

-
- | | |
|--------|--|
| 13:30~ | 事務局より資料確認 |
| 13:35~ | 区内方面別まち歩き ふり回り |
| 13:50~ | ワークシート記入 |
| 14:00~ | 班内で発表(1人2分ずつ) |
| 14:20~ | 【ワークショップ】導入
～自分の体験・身近なつながりの場をふりかえる～ |
| 14:50~ | シートに記入(40分) |
| 15:30~ | 休憩 |
| 15:40~ | 3人1組となって分かち合い
(発表10分、質問付箋記入2分、発表者とのやり取り10分) |
| 16:50~ | 事務連絡(第4講見学会について)
学びのまとめ記入 |
| 17:00 | 終了 |

進行：吉原明香

第2講の区内方面別まち歩きの報告を、班ごとに発表し、全体で共有しました。
それぞれ歩いたルート、まち歩き・マップづくりで気づいた点を報告し合うことで、重要なポイントを学び合うことができました。



第4講 11月7日(水)

現地見学会(区外) ～こまちカフェ～

■講師：多田 香菜 氏 (NPO 法人こまちぷらす コーディネーター)

■見学場所

こまちカフェ (戸塚区)

■次第

9:30-9:55 受付→「こまちカフェ」へ移動

9:55-10:00 事務局より資料確認

10:00-10:40 「こまちぷらす」の取組みについて
講師：多田香菜さん

10:40-11:00 こまちカフェ内見学

11:00-12:00 昼食(こまちカフェ店内) ※ドリンク付き 1350 円

12:00-12:25 質問・取組に対してのインタビュー

12:25-12:30 事務局連絡(次回講座のお知らせ)

今回の見学会では、子育て中の親子同士、そしてそれを支える地域の人たちが出会い、リフレッシュし、支えあうカフェ「こまちカフェ」を訪問しました。

こまちカフェを運営する NPO 法人こまちぷらすは、子育てで孤立することなく、子どもの誕生が歓迎される社会をつくるために、様々な社会的課題解決型事業を提案。「必要な情報を届ける事業」「親子の居場所「ひろばカフェ」の運営」「ウェルカムベビープロジェクト」「フューチャーセッション」などを通して、異なる立場からの視野の共有を図り、新たな価値を創造しており、受講生の皆さまも積極的にご参加いただきました。



第4講 11月8日(木)

現地見学会（区外） ～六ッ川野外サロン～

■講師：河原 勇輝 氏（株式会社太陽住建 代表取締役）

■見学場所

Ｙワイ広場（磯子区）の取組

■次第

-
- 9:30-9:55 受付→「Ｙワイ広場」へ移動
 - 9:55-10:00 事務局より資料確認
 - 10:00-11:00 「Ｙワイ広場」立上げの経緯について
講師：河原勇輝さん（株式会社太陽住建）
 - 11:00-11:40 質疑応答、お話を聞いて感じたこと
 - 11:40-11:55 Ｙワイ広場見学
 - 11:55-12:00 事務局連絡（次回講座のお知らせ）
-

コミュニティスペースの他にシェアオフィス機能をもった「Ｙワイひろば」を訪問しました。
Ｙワイ広場は磯子区中原にある空き家を活用しており、（株）太陽住建が中心となって、区役所、社会福祉協議会、地域ケアプラザと協力し、オープンに至りました。



■講師：芦川 弘 氏（庄戸の元気づくり 代表）

■見学場所

庄戸の元気づくりサロン（栄区）の取組

■次第

- 10:45-11:00 受付→バスで「庄戸」へ移動
11:20-12:00 「庄戸の元気づくり」イベント参加
庄戸の元気づくり代表、芦川さんによるうどん作り
※昼食代：400 円
12:00-13:00 昼食を取りながら、立ち上げ経緯を伺う
質疑応答
13:00-13:40 サロン内見学
13:40-13:45 事務局連絡（次回講座のお知らせ）
(港南台行きのバス：13 時 26 分、13 時 56 分)

地域多世代交流の場として、空き家を活用したサロンで、「子育て支援」、「多世代交流」、「くらしの応援隊、学びの学園隊」など、様々な活動を展開している庄戸の元気づくりサロンを見学しました。



大切にしていることは、「地域住民の地域の実情を共有し、地域の特性・資源を生かし、お互いが協力し合い、元気なまちづくりを行うことにより、これからもずっと住み続けたいコミュニティの充実を図る」自ら打ったうどんを食べながら、サロンのスタッフの皆様と意見交換しました。



- 卒業生リレートーク：山村まゆみ 様
 本杉重行 様
 木下ひろみ 様

■場所：ど根性キッチン（いずみ野駅前）

■次第-----

- 14:55-15:00 受付
15:00-15:45 卒業生リレートーク
 ・山村まゆみ 様
 ・本杉重行 様
 ・木下ひろみ 様
15:45-16:00 まちづくりに関する支援制度について
16:00-16:10 休憩
16:10-16:35 「チャレンジプラン」の作成について
16:35-17:10 チャレンジプラン作成（個人ワーク）

17:10-17:55 各班で発表
 （1人4分発表、付箋記入2分、コメント3分）
17:55-18:00 事務局連絡
 18:00 懇親会
-



第5講はいずみ野駅にある地産地消のお店「ど根性キッチン」で開催。

活動の取組を、みらい塾卒業生から聞くことで、自分の地域課題への取組や意識を高める事ができました。また、地域の課題解決に向けた取組の進め方についても、実例を通し学ぶことができました。



後半は自分の地域で実行したい取り組みについて「チャレンジプラン」を作る作業をし、お互いにアドバイス・意見交換しました。

■コメンテーター：内海 宏 氏（横浜市まちづくりコーディネーター）

■場所：泉区役所4階 会議室

■次第-----

13:15-13:30 受付
13:30 第1部-卒業発表
13:30-14:40 チャレンジプラン全員発表（各4分）
14:40-15:00 総評（内海宏氏）
15:00-15:10 休憩
15:10 第2部-卒業式
15:10-15:30 修了証授与
15:30-15:35 卒業生代表あいさつ
15:35-15:50 はなむけの言葉
15:50-15:55 事務局より
15:55-16:00 写真撮影

第5講で作成した「チャレンジプラン」を、まちづくりコーディネーターの内海宏氏他から発表内容やこれからの地域づくりについてコメントをいただきつつ、受講生全員でご自身のチャレンジプランの内容や受講した感想を共有し合いました。



受講生全員によるチャレンジプラン発表



内海氏によるコメント



卒業生代表あいさつ



佐久間塾長はなむけの言葉

チャレンジプランの発表を通して、これから活動に取り組んでいこうという意欲を高めることができました。懇親会の実施により、受講生同士がさらに親睦を深め、泉区まちづくりみらい塾終了後までつながる受講生同士のネットワークを構築することができました。

3)「学びのまとめ」の回収・分析・改善

今年度も「学びのまとめ」を毎回提出してもらいました。1 講ずつ受講生の学習状況を把握し、講義に関する意見などを出していただく機会として、「学びのまとめ」は有効と思われますので、来年度も継続したいと考えます。

4) 全体を振り返って（事業について）

■効果

・現場に即した学び合い

自治会・町内会、NPO、行政など、多様なメンバーによる人材のネットワークを活かして、テーマ毎に適切な講師をお呼びし、講座を開催する事ができました。

・自ら、まちの課題解決に取り組む

同じ区内で、みらい塾卒業生や、自治の力をつけている地域づくり先進地域へ現地見学会に行くことで、「地域でこれだけのことができる」「自分たちでもできる」という認識を共有することができました。

■良かった点

- ・講師や現地見学先、卒業生との連絡調整など、作業を分担させることで効率よく準備を進める事ができました。
- ・講座前にタイムスケジュールや役割分担の確認のための詳細な打ち合わせを行い、全体的な流れの共通認識、役割認識ができており、そのため当日も状況に合わせて柔軟に対応できました。
- ・チャレンジプランの発表や、最終講のアンケートにおいて、自らのまちは自分たちで良くしていくという住民主体の考え方が多くの受講生に浸透したことが確認でき、講座のねらいが達成できました。

■引継ぎ事項

- ・講座終了後、現場と具体的につながっていない受講生を地域での活動にどのようにつなげていくかについてはまだ見いだせていないところがあります。受講生の活動（地域活動等）についての追跡調査と、活動のフォローアップについて、泉区市民活動支援センターや泉区社会福祉協議会等と共同支援体制をつくることを検討する必要があります。

認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

2018年度

決 算 書

1. 活動計算書
2. 貸借対照表
3. 財務諸表の注記
4. 財産目録

(参考) 予算・決算比較表

法人名： 認定特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

活動計算書

2018 年 4 月 1 日 ～ 2019 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	272,000		
準会員受取会費	9,000		
賛助会員受取会費	35,000	316,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	100,740	100,740	
3. 受取助成金			
助成金収益	950,000	950,000	
4. 事業収益			
自主事業収益	14,290,804		
受託事業収益	74,868,196	89,159,000	
5. その他収益			
受取利息	1,102		
雑収益	288,392	289,494	
経常収益計			90,815,234
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給料手当	38,544,385		
賞与	8,729,521		
法定福利費	5,854,041		
通勤手当	2,404,248		
福利厚生費	702,230		
人件費計	56,234,425		
(2)その他経費			
売上原価	75,632		
講師謝礼金	5,244,580		
業務委託費(調査等)	613,660		
業務委託費(顧問報酬)	899,942		
ボランティア謝金	161,477		
旅費交通費	1,208,062		
通信・運搬費	2,320,332		
印刷・製本費	3,766,245		
消耗品費	1,215,719		
事務所家賃	2,305,443		
水道光熱費	95,825		
支払手数料	308,945		
リース料	1,137,928		
保険料	36,692		
会場費	605,372		
イベント費	551,564		
研究・研修費等	1,208,856		
資料代	159,596		
修繕費	181,224		
警備料	668,736		
広告宣伝費	282,487		
新聞図書費	1,139,749		
支払助成金	0		
租税公課	4,537,445		
交際費	200,011		
諸会費	83,664		
雑費	580,709		
減価償却費	1,181,378		
支払利息	41,508		

貸倒繰入額	63,700		
その他経費計	30,876,481		
事業費計		87,110,906	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	271,554		
法定福利費	34,755		
通勤手当	121,904		
人件費計	428,213		
(2) その他経費			
業務委託費(報酬)	37,498		
旅費交通費	12,203		
通信・運搬費	23,438		
印刷・製本費	38,043		
消耗品費	12,280		
事務所家賃	96,060		
水道光熱費	3,993		
リース料	11,494		
保険料	0		
支払手数料	12,873		
会場費・イベント費	22,982		
寄付金	32,738		
減価償却費	49,224		
諸会費	3,486		
雑費	24,196		
その他経費計	380,508		
管理費計		808,721	
経常費用計			87,919,627
当期経常増減額			2,895,607
III 経常外収益			
貸倒引当金戻入		43,900	
経常外収益計			43,900
IV 経常外費用			
固定資産除却損		0	
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			2,939,507
法人税・住民税および事業税			74,500
当期正味財産増減額			2,865,007
前期繰越正味財産額			34,756,696
次期繰越正味財産額			37,621,703

法人名： 認定特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

貸借対照表

2019 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	35,152,366		
未収金	10,827,023		
貸倒引当金	△ 63,700		
棚卸資産	421,608		
前払費用	16,880		
仮払金	173,781		
流動資産合計		46,527,958	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
工具器具備品	643,235		
有形固定資産計	643,235		
(2) 投資その他の資産			
敷金	338,000		
差入保証金	258,096		
長期前払費用	31,131		
投資その他の資産計	627,227		
固定資産合計		1,270,462	
資産合計			47,798,420
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	4,177,397		
未払費用	3,508,617		
預り金	374,500		
前受金	3,000		
仮受金	3		
未払法人税等	74,500		
未払消費税等	2,038,700		
流動負債合計		10,176,717	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			10,176,717
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		34,756,696	
当期正味財産増減額		2,865,007	
正味財産合計			37,621,703
負債及び正味財産合計			47,798,420

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は、原価基準により評価方法は最終仕入原価法によっています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
工具器具備品	1,577,124			1,577,124	△ 933,889	643,235
合 計	1,577,124	0	0	1,577,124	△ 933,889	643,235

財産目録

2019 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
横浜市市民活動支援センター小口	209,220		
にしく市民活動支援センター小口	19,894		
市民活動支援センター窓口	30,000		
その他小口現金	236,007		
横浜銀行 (管理通帳)	1,569,520		
横浜銀行 (支援センター)	7,246,870		
横浜銀行 (事業通帳)	7,307,455		
横浜銀行 (にしく支援C通帳)	6,839,485		
ゆうちょ銀行	1,693,094		
横浜銀行定期預金	10,000,821		
現金預金計	35,152,366		
未収金			
NTTドコモまちかどケアデモ版アプリ共同開発負担金	2,700,000		
横浜市認知症サポーターキャラバン事業等受託費用4/4	1,350,000		
横浜あゆみ荘宿泊モニタリング実施料	280,800		
みやぎ提携復興センター 地域コミュニティ再生支援事業謝金	182,952		
地域の居場所支援モデル事業(おもいやり隊)の支援方策に係る業務委託費用	538,164		
横浜市協働事業提案支援モデル事業運営業務費	726,900		
横浜市都市整備局 まち普請事業運営費用	961,200		
横浜市小規模多機能居宅介護事業者連絡会 事務局業務	540,000		
横浜市泉区事例集製作費	999,129		
横浜市都筑区シニアスター養成講座企画・開催委託費	1,189,188		
横浜市神奈川区地域づくり大学校横浜市負担金	1,219,730		
その他	138,960		
未収金計	10,827,023		
貸倒引当金	-63,700		
棚卸資産			
書籍在庫	21,100		
災害時用備蓄品	400,508		
棚卸資産計	421,608		
前払費用			
施設賠償保険料	16,880		
仮払金			
研修経費仮払い	82,514		
評価調査費仮払い	11,267		
チラシ印刷費仮払い	80,000		
仮払金計	173,781		
流動資産合計		46,527,958	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
工具器具備品			
電話設備2件	643,235		
有形固定資産計	643,235		
(2)投資その他の資産			
敷金			
WEWORKスペース入居 敷金	338,000		
差入保証金			
NGS横浜馬車道事務所 保証金	258,096		
長期前払費用			

NTTファイナンス割賦利息	31,131		
投資その他の資産計	627,227		
固定資産合計		1,270,462	
資産合計			47,798,420
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
市民活動支援センター 警備費・電話代等	97,539		
市民活動支援センター 電話機設備	263,412		
市民活動支援センター 印刷代	539,028		
市民活動支援センター 消耗品費・郵送費等	213,557		
にしく市民活動支援センター 印刷費・消耗品費等	69,791		
法人事務所 電話代・水道光熱費等	20,683		
社会保険料・労働保険料	1,790,076		
モニタリング委託料	246,240		
報酬・謝金等	433,570		
WEWORK使用料 3月分	241,380		
健康診断・通信費 他	262,121		
未払金計	4,177,397		
未払費用			
給与 3月分 等	3,508,617		
預り金			
源泉所得税(職員)	64,342		
源泉所得税(講師・調査員等)	193,658		
社会保険料	0		
住民税	116,500		
預り金計	374,500		
前受金			
H31年度会費(正会員1名分)	3,000		
仮受金			
仮払金精算残金過剰戻し	3		
未払法人税等	74,500		
未払消費税等	2,038,700		
流動負債合計		10,176,717	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			10,176,717
正味財産			37,621,703

法人名： 認定特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

2018予算・決算 比較表

(単位:円)

科 目	2018予算	2018決算	差異(予算-決算)
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	210,000	272,000	62,000
準会員受取会費	12,000	9,000	△ 3,000
賛助会員受取会費	30,000	35,000	5,000
2. 受取寄付金			
受取寄付金	30,000	100,740	70,740
3. 受取助成金			
助成金収益	900,000	950,000	50,000
4. 事業収益			
自主事業収益	9,615,000	14,290,804	4,675,804
受託事業収益	73,791,200	74,868,196	1,076,996
5. その他収益			
受取利息	500	1,102	602
雑収益	440,000	288,392	△ 151,608
経常収益計	85,028,700	90,815,234	5,786,534
II 経常費用			
(1) 人件費			
給料手当(賞与・法定福利費・通勤手当含む)	55,715,000	55,960,408	245,408
福利厚生費	685,000	702,230	17,230
人件費計	56,400,000	56,662,638	262,638
(2) その他経費			
売上原価		75,632	75,632
講師謝礼金	4,600,000	5,244,580	644,580
業務委託費(調査等)	430,000	613,660	183,660
業務委託費(顧問報酬)	933,000	937,440	4,440
ボランティア謝金	175,000	161,477	△ 13,523
旅費交通費	975,000	1,220,265	245,265
通信・運搬費	2,400,000	2,343,770	△ 56,230
印刷・製本費	3,000,000	3,804,288	804,288
消耗品費・備品費	1,800,000	1,227,999	△ 572,001
事務所家賃	1,550,000	2,401,503	851,503
水道光熱費	80,000	99,818	19,818
支払手数料	230,000	321,818	91,818
リース料	1,782,000	1,149,422	△ 632,578
保険料	35,000	36,692	1,692
会場費・イベント費	820,000	1,179,918	359,918
研究・研修費	400,000	1,208,856	808,856
新聞図書・資料代	1,232,000	1,299,345	67,345
修繕費	100,000	181,224	81,224
警備料	669,000	668,736	△ 264
支払助成金	0	0	0
租税公課(消費税等)	4,300,000	4,537,445	237,445
寄付金	20,000	32,738	12,738
減価償却費	484,000	1,230,602	746,602
支払利息	42,000	41,508	△ 492
諸会費・雑費他	345,000	892,066	547,066

広告宣伝費	270,000	282,487	12,487
貸倒繰入額	0	63,700	63,700
その他経費計	26,672,000	31,256,989	4,584,989
経常費用 計	83,072,000	87,919,627	4,847,627
当期経常増減額	1,956,700	2,895,607	938,907
Ⅲ 経常外収益			
貸倒引当金戻入	0	43,900	43,900
経常外収益計	0	43,900	43,900
Ⅳ 経常外費用			
繰延資産償却	0	0	0
固定資産除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	1,956,700	2,939,507	982,807
法人税・住民税および事業税	200,000	74,500	△ 125,500
当期正味財産増減額	1,756,700	2,865,007	1,108,307
前期繰越正味財産額	34,756,696	34,756,696	0
次期繰越正味財産額	36,513,396	37,621,703	1,108,307